
高齢者の生活に関する調査

報告書（概要版）

平成 29 年 3 月
葛 飾 区



目 次

第1章 調査実施の概要	1
第2章 調査結果の要旨	2
1 調査の回答者	2
■認定を受けていない者は「あて名のご本人」が90.3%、要支援・要介護認定者では「あて名のご本人」が47.1%	2
2 「あて名のご本人」の属性	3
■性別は、認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに「女性」が5～6割台.....	3
■年齢は、認定を受けていない者は「70～74歳」、要支援・要介護認定者は「80～84歳」が最も多い	4
■要支援・要介護認定者の要支援・要介護度は「要介護2」が22.6%で最も多い.....	5
■要支援・要介護認定者の生活している場所は「自宅」が80.8%を占める.....	6
3 家族について	7
■認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに、「家族と同居(65歳以上ではない)」の占める割合が最も多い.....	7
■認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに、「半日以上ひとりになることはほとんどない」が5割前後を占める.....	8
4 住まいについて	9
■認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに、現在の住まいは「一戸建て(持ち家)」が6割弱を占める.....	9
5 健康状態について	10
■認定を受けていない者は「高血圧・歯の病気・目の病気」、要支援・要介護認定者は「高血圧・筋肉や骨の病気・目の病気」が上位3位.....	10
■「かかりつけ医を決めている」は、認定を受けていない者では82.2%、要支援・要介護認定者では90.8%、「かかりつけ歯科医を決めている」は、認定を受けていない者では56.2%、要支援・要介護認定者では43.5%.....	11

■要支援・要介護認定者では、訪問診療（往診）を「受けている」20.5%	12
■要支援・要介護認定者では、訪問看護を「受けている」18.6%	12
6 要支援・要介護認定の申請経験	13
■認定を受けていない者について、要支援・要介護申請経験が「ある」は3.5%	13
7 日常生活における自立について	14
■要支援・要介護認定者は「階段の昇り降り・50メートル以上歩く・入浴をする」について、一人でできない割合が多い	14
■要支援・要介護認定者は「バスや電車を使った外出・掃除や洗濯をする・預貯金の出し入れをする」について、一人でできない割合が多い	15
■外出について、認定を受けていない者は「ほぼ毎日」が55.4%、要支援・要介護認定者は「週2～3日」の34.4%が最も多い	16
8 就労について	17
■認定を受けていない者について、仕事を「している」は32.4%、「していない」が62.1%	17
■認定を受けていない者の働いている理由の第1位は「家計の維持・補助のため」、働いていない理由の第1位は「高齢だから」	18
9 社会参加について	19
■認定を受けていない者について、参加している割合が多い生きがい・社会参加活動は「趣味・楽しみのための活動」「ジョギングやスポーツ活動」「町会・自治会の活動」	19
■認定を受けていない者について、参加意向が多い生きがい・社会参加活動は「趣味・楽しみのための活動」「健康維持、介護予防のための活動」「スポーツ活動」「町会・自治会の活動」	20
10 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）について	21
■“知っている”は、認定を受けていない者では59.1%、要支援・要介護認定者では70.0%	21
11 介護予防について	24
■認定を受けていない者は87.3%が日常生活で何らかの介護予防に取り組んでいる	24

■認定を受けていない者は81.1%が何らかの介護予防に興味を持っている.....	25
■認定を受けていない者が介護予防事業を“知っている”割合は56.2%.....	26
1 2 日常生活の支援について	27
■何らかの支援者がいる割合は、認定を受けていない者では84.6%、要支援・要介護認定者では86.9%	27
■要支援・要介護認定者は「避難所まで一人では避難できない」が58.5%	28
■認定を受けていない者が考える在宅生活の継続に必要な条件は、自身の健康等の維持・向上などに加えて、「家事ができること」など、回答者自身に関する条件をあげた割合が多い.....	29
1 3 介護保険サービスについて（居宅）	30
■要支援・要介護認定者について、介護サービス、介護予防サービスを「利用している」は74.0%、「利用していない」は19.5%.....	30
■要支援・要介護認定者について、「ケアプランは希望どおりである」が74.9%、「介護サービスに満足している」は72.5%	31
■要支援・要介護認定者が自宅で生活する上で利用したいサービスは、「訪問介護（ホームヘルプ）」が最も多い.....	32
1 4 介護保険サービスについて（施設等）	33
■要支援・要介護認定者について、施設等に入所している人の75.8%が施設等での生活に“満足”	33
1 5 今後の生活の希望について	34
■認定を受けていない者は“自宅”で暮らしたいという希望があわせて56.3%.....	34
■要支援・要介護認定者は“現在の住まいで生活したい”という希望が68.1%.....	35
1 6 介護者の状況	36
■要支援・要介護認定者の主な介護者は「息子・娘」24.7%、「配偶者」20.1%の割合が多い.....	36
■要支援・要介護認定者の主な介護者は50～70歳代である割合が62.3%、平均年齢は65.6歳.....	37

■要支援・要介護認定者の主な介護者が介護で困っていることがあると回答した割合は71.5%、具体的には「精神的に疲れている」の44.7%が最も多い.....	38
17 介護保険料等について	39
■「高いと思う」は、認定を受けていない者では44.0%、要支援・要介護認定者では23.3% ■認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに「どちらとも言えない」が最も多い.....	39 40
18 区の高齢者施策等について	41
■認定を受けていない者は「区の広報、回覧板、ポスター」、要支援・要介護認定者は「ケアマネジャー」が最も多い..... ■認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに「自宅で利用できるサービスを充実させること」が最も多い.....	41 43

第1章 調査実施の概要

1 調査目的

「高齢者の生活に関する調査」は、葛飾区が平成 29 年度に策定する高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成 30～32 年度）の基礎的な資料とするため、区内在住の 65 歳以上の高齢者を、要支援・要介護の認定を受けていない方（以下「認定を受けていない者」という。）と、要支援・要介護の認定を受けている方（以下「要支援・要介護認定者」という。）に分け、それぞれ生活実態や意向等を把握、分析することを目的とする。

2 調査の概要

調査対象者	認定を受けていない者	要支援・要介護認定者
抽出方法	介護保険台帳をもとに、要支援・要介護の認定を受けていない 65 歳以上の区民（平成 28 年 10 月 1 日現在）の中から地域・年齢を考慮した上で無作為に抽出	介護保険台帳をもとに、要支援・要介護の認定を受けている 65 歳以上の区民（平成 28 年 10 月 1 日現在）の中から地域・年齢を考慮した上で無作為に抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収	
調査期間	平成 28 年 10 月 21 日～11 月 18 日	
調査票の回収結果	配布数 : 2,200 票	配布数 : 1,800 票
	有効回収数 : 1,564 票	有効回収数 : 1,158 票
	有効回収率 : 71.1%	有効回収率 : 64.3%

3 調査結果の見方

- 図表中の「N」は、設問への回答者数を示す。
- 調査結果のグラフは、各回答の割合（％）で表示する。
- 各回答の割合（％）は、すべて小数点以下第 2 位を四捨五入した数値であるため、各回答の割合（％）の合計が 100％にならない場合がある。
- 複数回答（あてはまるものすべてに○）の設問においては、各回答の割合（％）の合計は 100％にならない。
- ±0.5 ポイント以内は横ばい、±0.6～0.9 ポイントは微増・微減、±1 ポイント以上は増加・減少と記している。

第2章 調査結果の要旨

1 調査の回答者

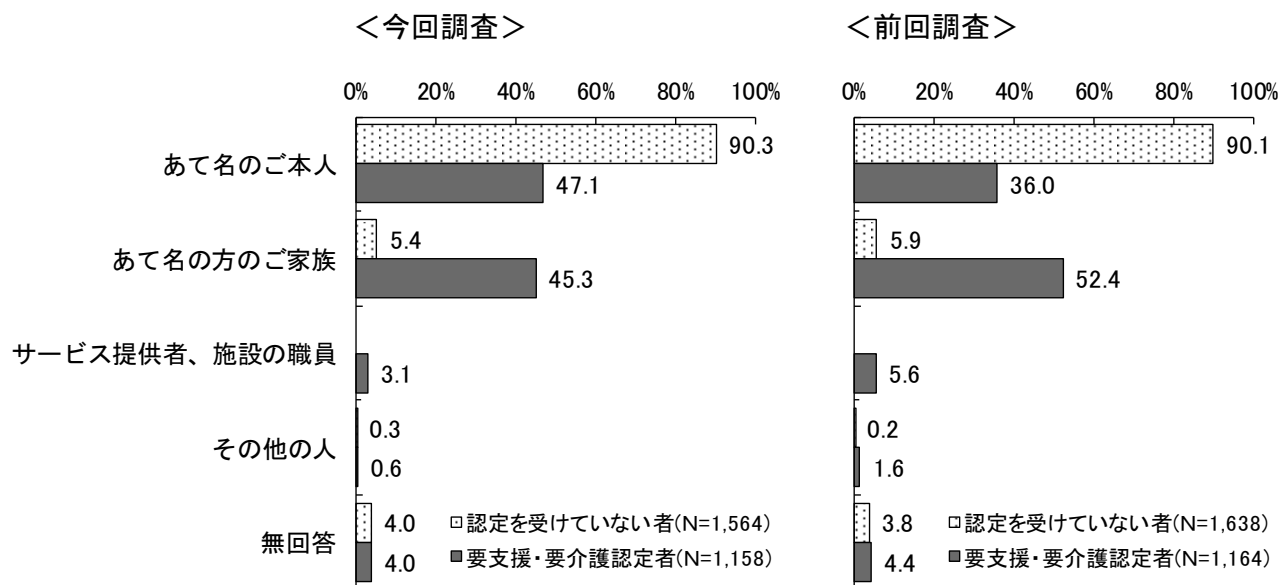
■認定を受けていない者は「あて名のご本人」が90.3%、要支援・要介護認定者では「あて名のご本人」が47.1%

- ・ 認定を受けていない者は「あて名のご本人」が90.3%である。
- ・ 要支援・要介護認定者では「あて名のご本人」が47.1%を占め、「あて名の方のご家族」は45.3%となっている。

《経年比較》

- ・ 平成25年度の調査と比較すると、認定を受けていない者について「あて名のご本人」（90.1%→90.3%）は横ばいである。
- ・ 要支援・要介護認定者は、「あて名のご本人」（36.0%→47.1%）が増加し、「あて名の方のご家族」（52.4%→45.3%）は減少となっている。

【 調査の回答者(単数回答) 】



※「サービス提供者、施設の職員」の選択肢は、要支援・要介護認定者のみ

2 「あて名のご本人」の属性

■性別は、認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに「女性」が5～6割台

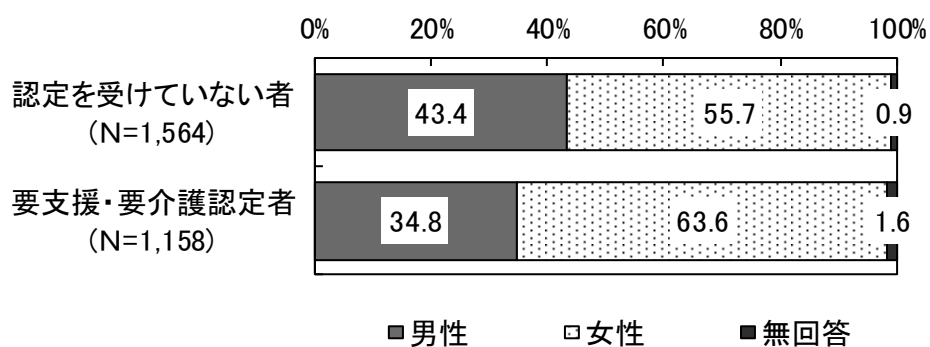
- 認定を受けていない者は「女性」55.7%、「男性」43.4%となっている。
- 要支援・要介護認定者では「女性」が63.6%、「男性」が34.8%となっている。

《経年比較》

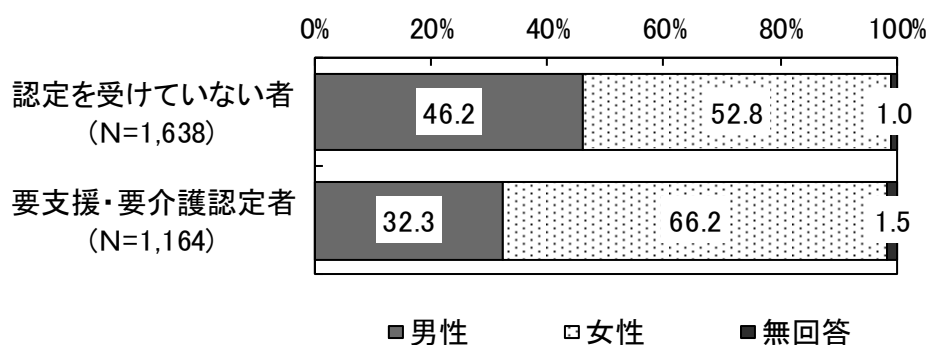
- 平成25年度の調査と比較すると、認定を受けていない者について「女性」(52.8%→55.7%)は増加、「男性」(46.2%→43.4%)は減少している。
- 要支援・要介護認定者は、「女性」(66.2%→63.6%)は減少、「男性」(32.3%→34.8%)は増加している。

【性別(単数回答)】

<今回調査>



<前回調査>



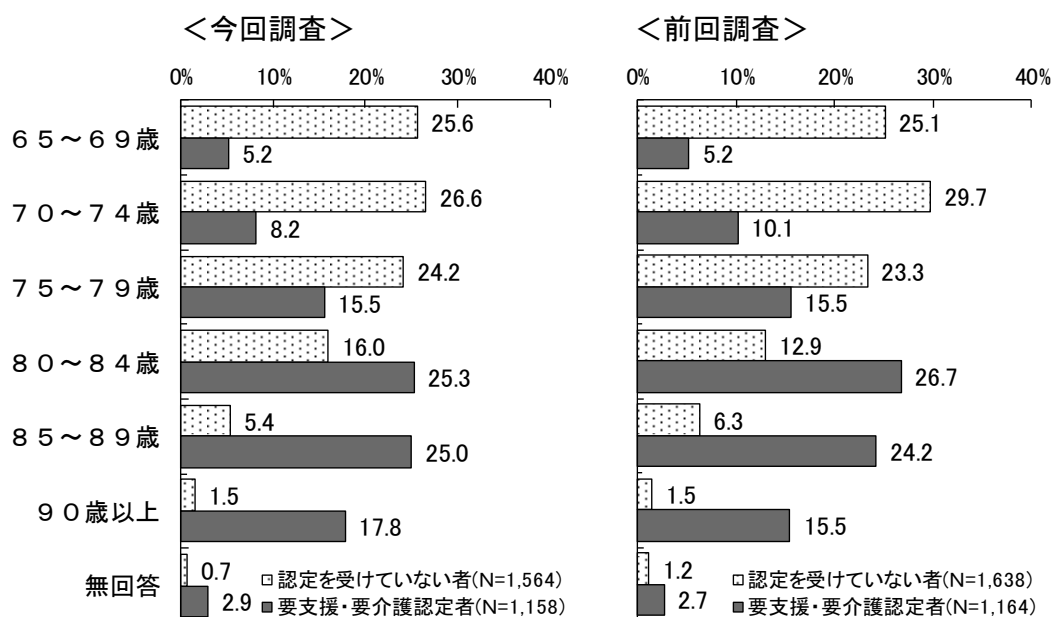
■年齢は、認定を受けていない者は「70～74 歳」、要支援・要介護認定者は「80～84 歳」が最も多い

- 認定を受けていない者は「70～74 歳」の 26.6%、「65～69 歳」の 25.6%などの割合が多く、65～74 歳の前期高齢者があわせて 52.2%を占める。認定を受けていない者の平均年齢は 74.7 歳である。
- 要支援・要介護認定者では「80～84 歳」が 25.3%、「85～89 歳」が 25.0%であり、80 歳代が 50.3%となる。要支援・要介護認定者の平均年齢は 83.0 歳である。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、認定を受けていない者について増加しているのは「80～84 歳」（12.9%→16.0%）である。
- 要支援・要介護認定者では「90 歳以上」（15.5%→17.8%）が増加している。

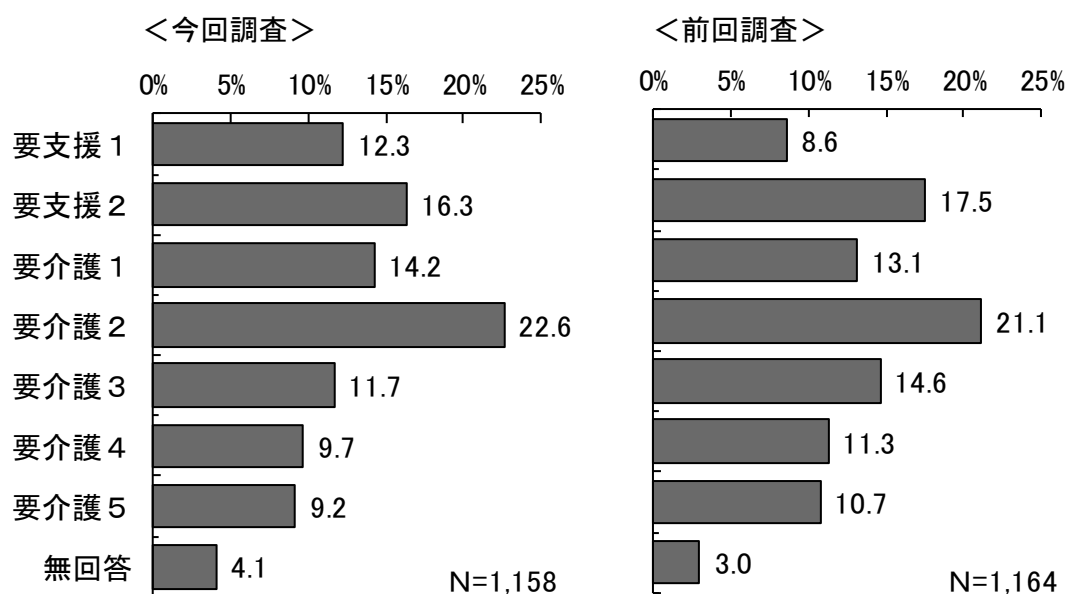
【 年齢(単数回答) 】



■要支援・要介護認定者の要支援・要介護度は「要介護 2」が 22.6%で最も多い

- 要支援・要介護認定者について、あて名のご本人の要支援・要介護度をみると、「要介護 2」が 22.6%で最も多く、次いで「要支援 2」16.3%、「要介護 1」14.2%となっている。
- 最も割合が少ないのは、「要介護 5」の 9.2%である。

【 要支援・要介護度(単数回答) 】

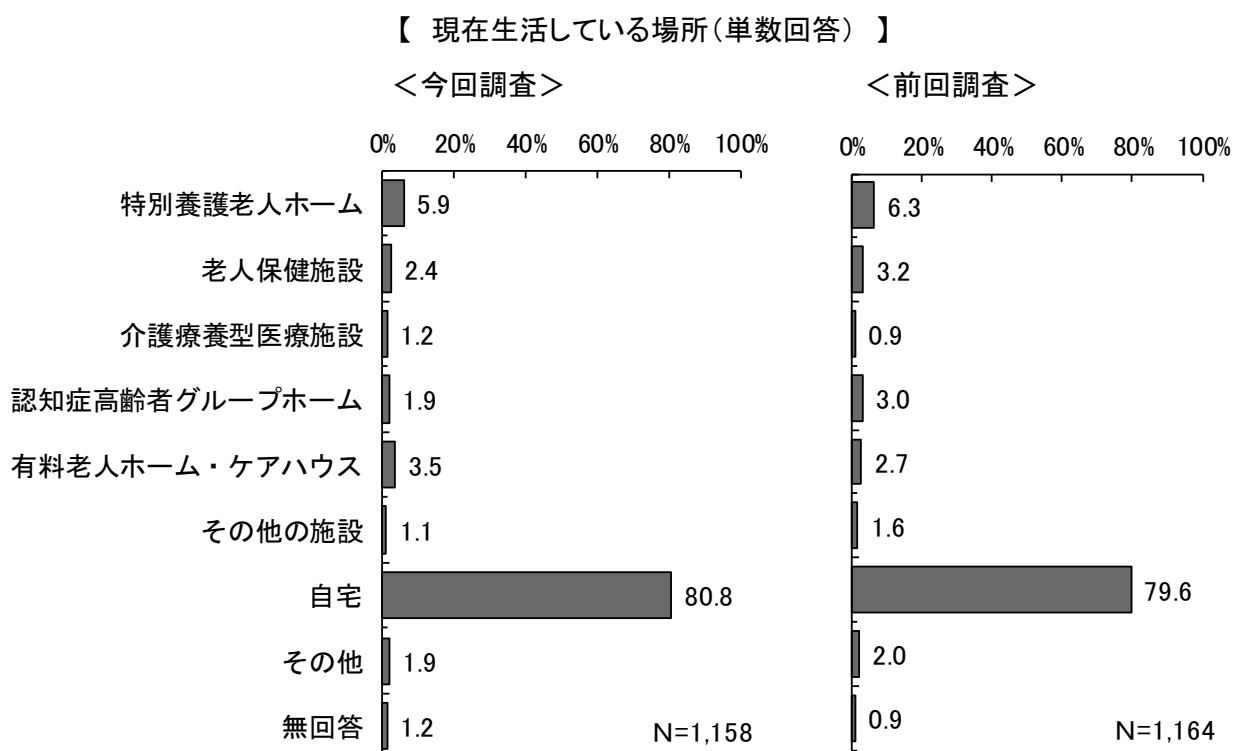


■要支援・要介護認定者の生活している場所は「自宅」が 80.8%を占める

- **要支援・要介護認定者**について、あて名のご本人が生活している場所をみると、「自宅」で暮らしている割合が 80.8%を占める。
- 自宅以外では、「特別養護老人ホーム」5.9%、「有料老人ホーム・ケアハウス」3.5%、「老人保健施設」2.4%の順に多いが、「特別養護老人ホーム」「有料老人ホーム・ケアハウス」以外はいずれも 3%以内となっている。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、**要支援・要介護認定者**では「自宅」(79.6%→80.8%)が増加している。



※「老人保健施設」「介護療養型医療施設」「自宅」の選択肢は、調査票では（ ）書きで説明を付しているが、報告書では掲載を省略している

3 家族について

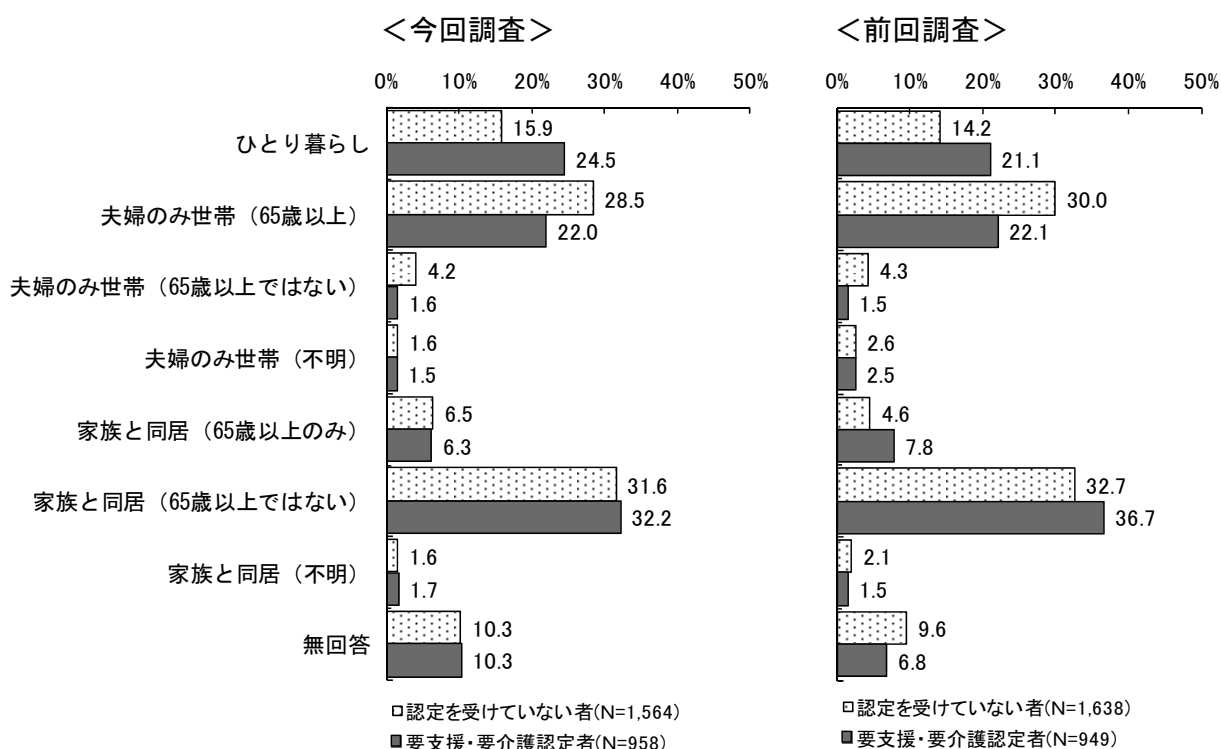
■認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに、「家族と同居(65歳以上ではない)」の占める割合が最も多い

- ・ **認定を受けていない者**では最も多い割合は「家族と同居(65歳以上ではない)」の31.6%であり、次いで「夫婦のみ世帯(65歳以上)」の28.5%、「ひとり暮らし」が15.9%で続いている。
- ・ **要支援・要介護認定者**では「家族と同居(65歳以上ではない)」の32.2%が最も多く、次いで「ひとり暮らし」24.5%、「夫婦のみ世帯(65歳以上)」22.0%となっている。
- ・ **認定を受けていない者**と**要支援・要介護認定者**を比較すると、「ひとり暮らし」および「家族と同居(65歳以上ではない)」は**要支援・要介護認定者**に多く、「夫婦のみ世帯」は**認定を受けていない者**に多くなっている。

《経年比較》

- ・ 平成25年度の調査と比較すると、**認定を受けていない者**では「ひとり暮らし」(14.2%→15.9%)は増加している。
- ・ **要支援・要介護認定者**においても「ひとり暮らし」(21.1%→24.5%)が増加している。

【世帯状況(単数回答)】



※上記は、同居者および65歳以上の世帯を組み合わせで集計しなおした結果である

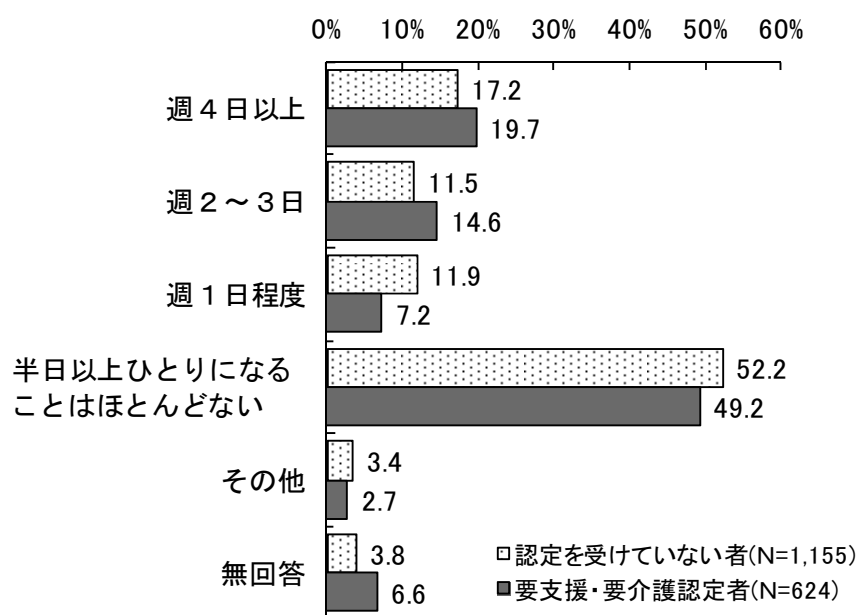
■認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに、「半日以上ひとりになることはほとんどない」が5割前後を占める

- **認定を受けていない者**では52.2%が「半日以上ひとりになることはほとんどない」と回答している。次いで「週4日以上」の17.2%となっている。
- **要支援・要介護認定者**では「半日以上ひとりになることはほとんどない」が49.2%、次いで「週4日以上」の19.7%である。

《経年比較》

- 平成25年度の調査と比較すると、**認定を受けていない者**では「半日以上ひとりになることはほとんどない」(48.8%→52.2%)が増加している。
- **要支援・要介護認定者**では「週4日以上」(17.8%→19.7%)は増加、「週2～3日」(9.4%→14.6%)は増加、「半日以上ひとりになることはほとんどない」(50.1%→49.2%)は微減、「週1日程度」(7.3%→7.2%)横ばいとなっている。

【 日中独居になる日数(単数回答) 】



4 住まいについて

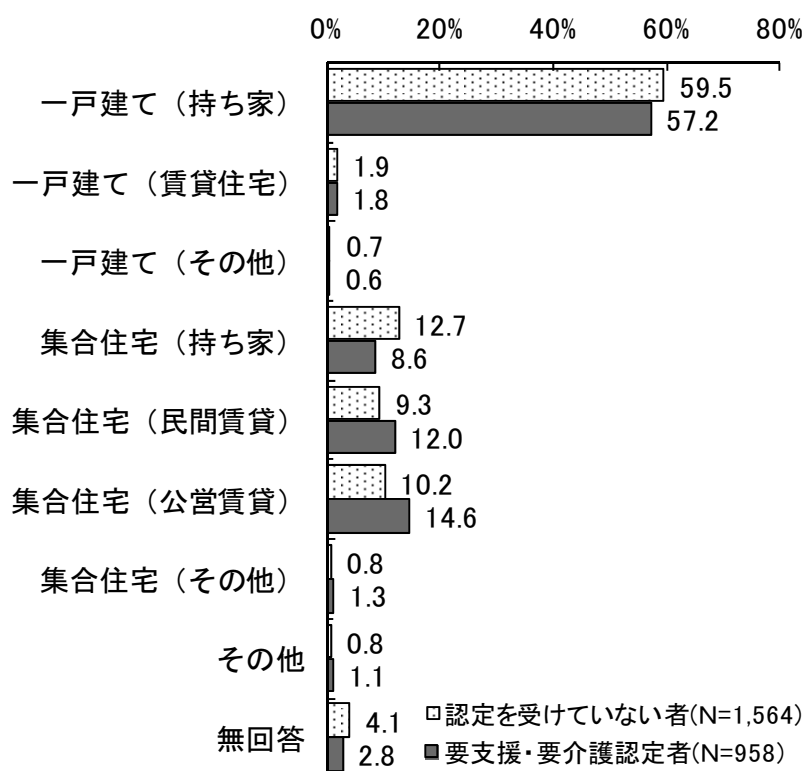
■認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに、現在の住まいは「一戸建て(持ち家)」が6割弱を占める

- **認定を受けていない者**では「一戸建て(持ち家)」が59.5%、次いで「集合住宅(持ち家)」が12.7%となっている。
- **要支援・要介護認定者**では「一戸建て(持ち家)」が57.2%、次いで「集合住宅(公営賃貸)」が14.6%となっている。

《経年比較》

- 平成25年度の調査と比較すると、**認定を受けていない者**では「一戸建て(持ち家)」(59.3%→59.5%)は横ばい、**要支援・要介護認定者**では「一戸建て(持ち家)」(59.9%→57.2%)は減少となっている。

【 自宅の種類と所有(単数回答) 】



※上記は、自宅の種類および所有を組み合わせ集計しなおした結果である

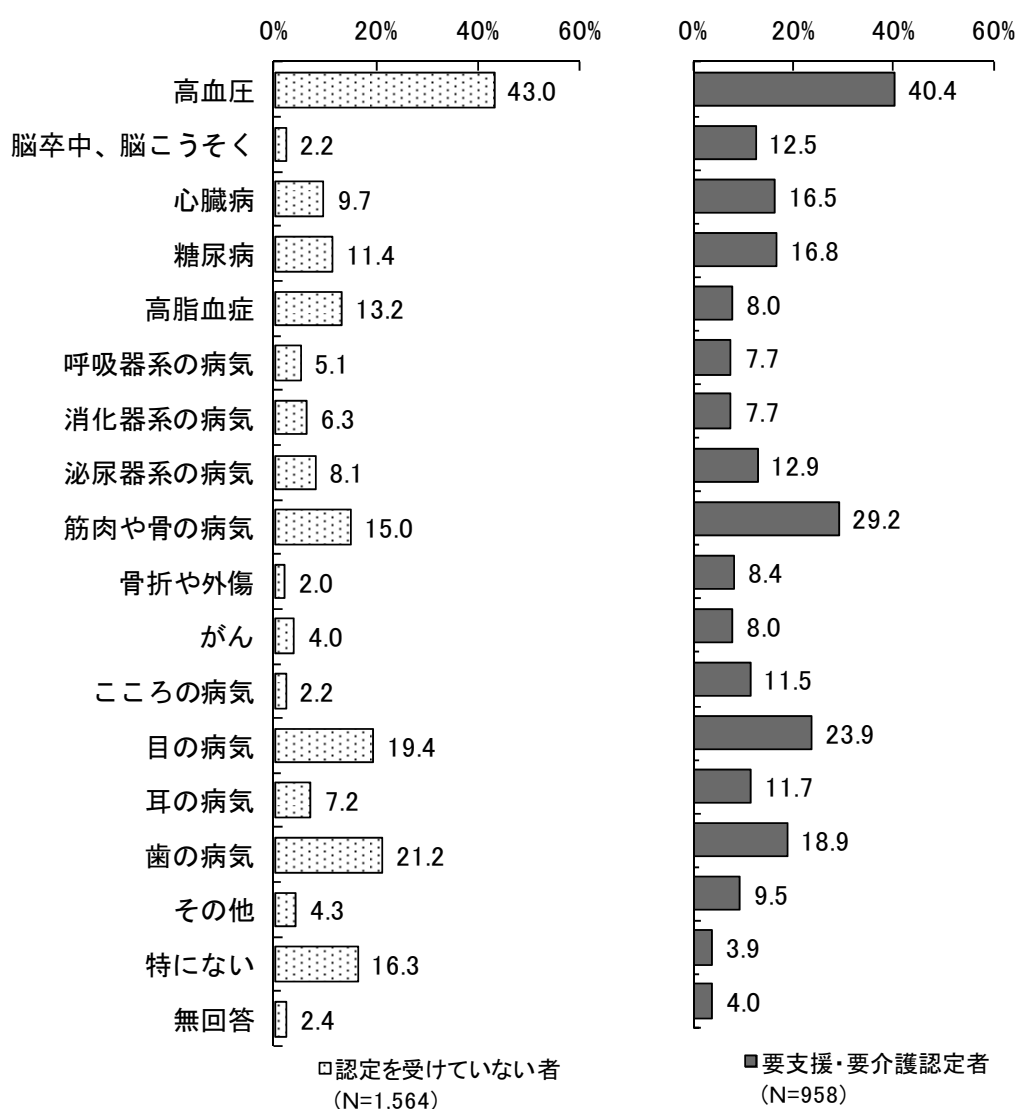
※「集合住宅」「民間の賃貸住宅」「公営の賃貸住宅」の選択肢は、調査票では()書きで説明を付しているが、報告書では掲載を省略している

5 健康状態について

■認定を受けていない者は「高血圧・歯の病気・目の病気」、要支援・要介護認定者は「高血圧・筋肉や骨の病気・目の病気」が上位3位

- **認定を受けていない者**では、何らかの疾病がある人（100%から「特にない」および「無回答」を引いた数値）が81.3%を占めている。具体的な疾病では「高血圧」43.0%、「歯の病気」21.2%、「目の病気」19.4%などが多い割合になっている。
- **要支援・要介護認定者**では、何らかの疾病がある人（100%から「特にない」および「無回答」を引いた数値）が92.1%となっている。具体的な疾病では「高血圧」40.4%、「筋肉や骨の病気」29.2%、「目の病気」23.9%などが2割を超えている。

【 疾病の状況(複数回答) 】

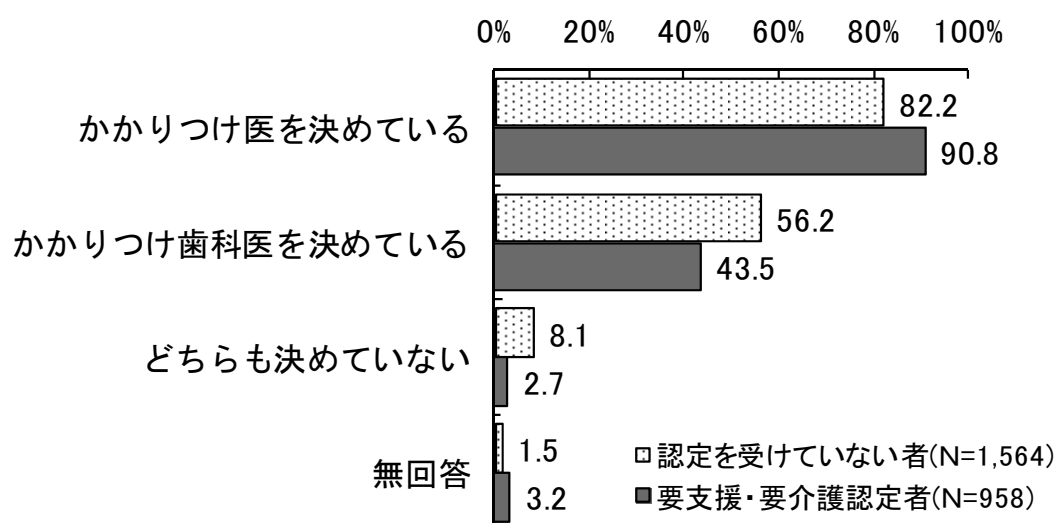


※「呼吸器系の病気」「消化器系の病気」「泌尿器系の病気」「筋肉や骨の病気」「こころの病気」「目の病気」「耳の病気」「歯の病気」の選択肢は、調査票では（ ）書きで説明を付しているが、報告書では掲載を省略している

■「かかりつけ医を決めている」は、認定を受けていない者では 82.2%、要支援・要介護認定者では 90.8%、「かかりつけ歯科医を決めている」は、認定を受けていない者では 56.2%、要支援・要介護認定者では 43.5%

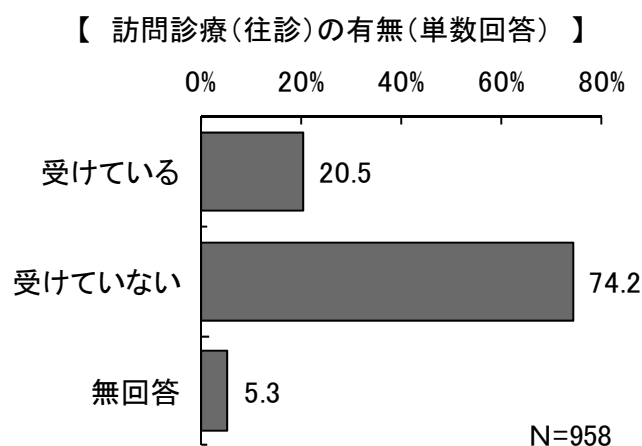
- 認定を受けていない者では、「かかりつけ医を決めている」82.2%、「かかりつけ歯科医を決めている」56.2%である。
- 要支援・要介護認定者では、「かかりつけ医を決めている」は 90.8%、「かかりつけ歯科医を決めている」43.5%である。

【 かかりつけ医、かかりつけ歯科医の有無(複数回答) 】



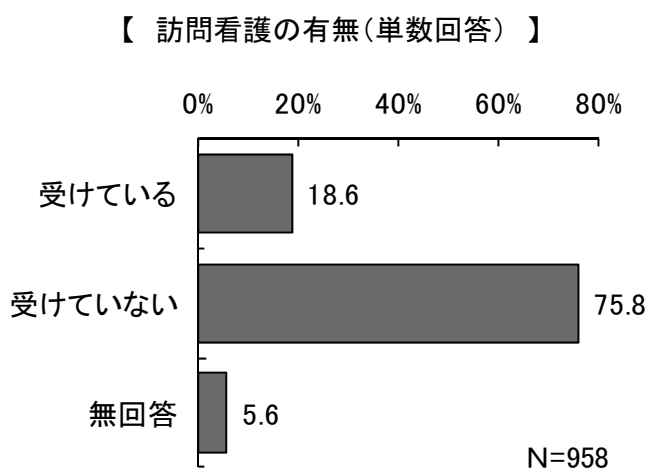
■要支援・要介護認定者では、訪問診療(往診)を「受けている」20.5%

- 要支援・要介護認定者では、「受けている」20.5%、「受けていない」74.2%である。



■要支援・要介護認定者では、訪問看護を「受けている」18.6%

- 要支援・要介護認定者では、「受けている」18.6%、「受けていない」75.8%である。



6 要支援・要介護認定の申請経験

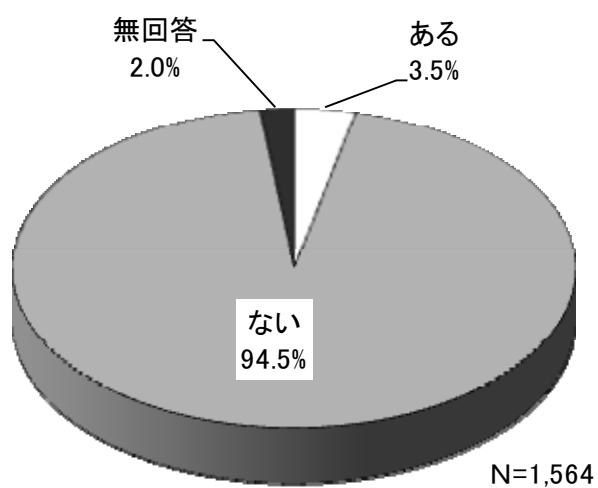
■認定を受けていない者について、要支援・要介護申請経験が「ある」は 3.5%

- 認定を受けていない者について、要支援・要介護申請経験をみると、要支援・要介護認定の申請をしたことが「ある」割合は 3.5%であり、94.5%はしたことが「ない」と回答している。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、「ある」(2.7%→3.5%) は微増、「ない」(94.5%→94.5%) は横ばいである。

【 要支援・要介護申請経験(単数回答) 】

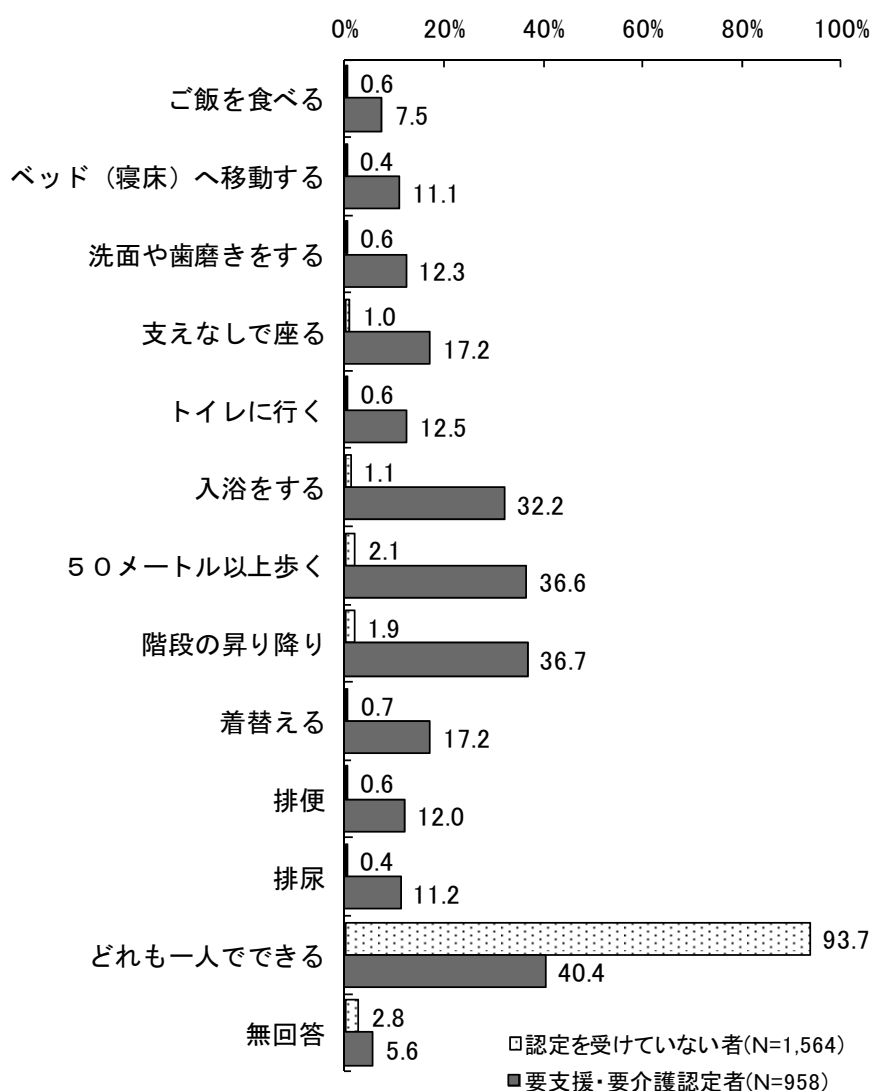


7 日常生活における自立について

■要支援・要介護認定者は「階段の昇り降り・50メートル以上歩く・入浴をする」について、一人でできない割合が多い

- **認定を受けていない者**では「どれも一人でできる」が 93.7%で最も多い。具体的に一人でできない動作をみると、「50メートル以上歩く」2.1%、「階段の昇り降り」1.9%、「入浴をする」1.1%、「支えなしで座る」1.0%などが 1%以上が一人でできないと回答した動作である。
- **要支援・要介護認定者**では「階段の昇り降り」36.7%、「50メートル以上歩く」36.6%、「入浴をする」は32.2%が、一人でできないと回答している。また、「支えなしで座る」「着替える」も、約 17%が一人でできないと回答している。

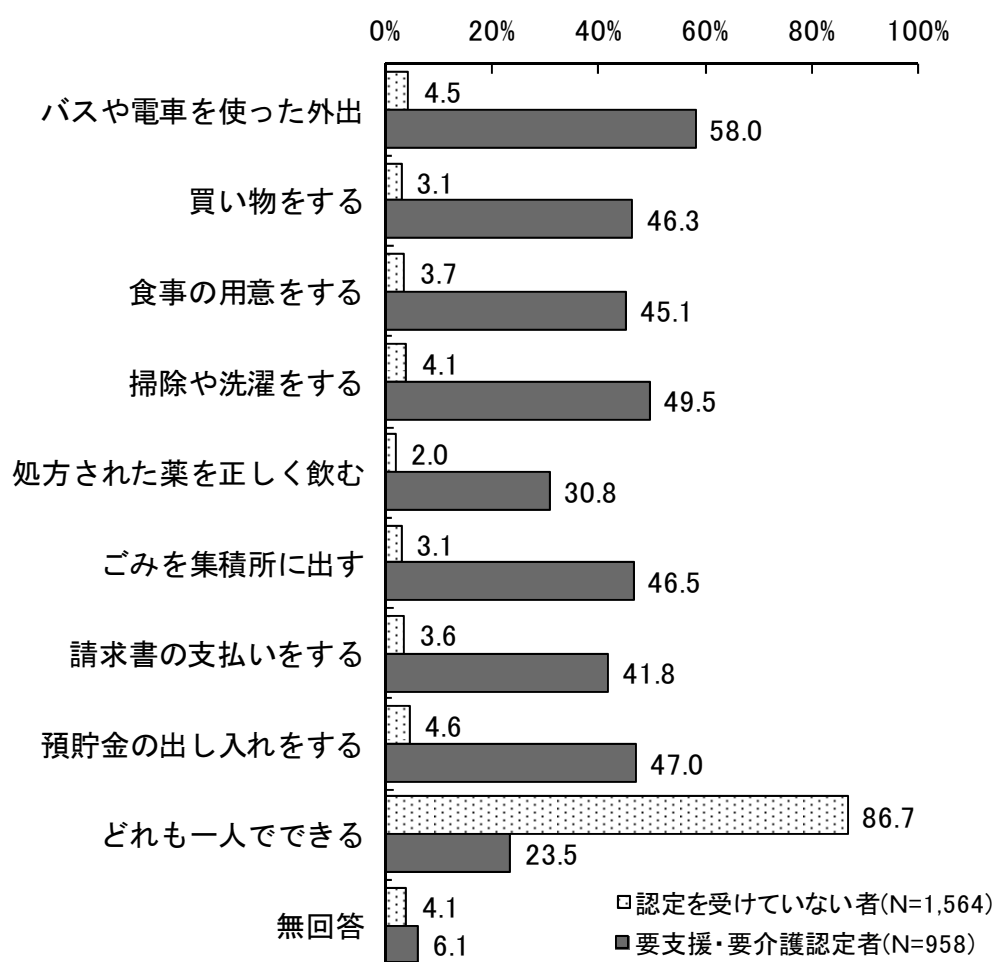
【 一人でできない基本的な動作(複数回答) 】



■要支援・要介護認定者は「バスや電車を使った外出・掃除や洗濯をする・預貯金の出し入れをする」について、一人でできない割合が多い

- **認定を受けていない者**では「どれも一人でできる」が 86.7%で最も多くなっている。具体的に一人でできない動作をみると、「預金の出し入れをする」4.6%、「バスや電車を使った外出」4.5%、「掃除や洗濯をする」4.1%、「食事の用意をする」3.7%、「請求書の支払いをする」3.6%、「買い物をする」3.1%、「ごみを集積所に出す」3.1%などとなっている。
- **要支援・要介護認定者**では「バスや電車を使った外出」は 58.0%が一人でできないと回答しており、他に比べて一人でできない割合が多くなっている。次いで「掃除や洗濯をする」49.5%、「預貯金の出し入れをする」47.0%、「ごみを集積所に出す」46.5%、「買い物をする」46.3%、「食事の用意をする」45.1%なども、45%以上が一人でできないと回答している。

【 一人でできない日常生活に関わる動作(複数回答) 】



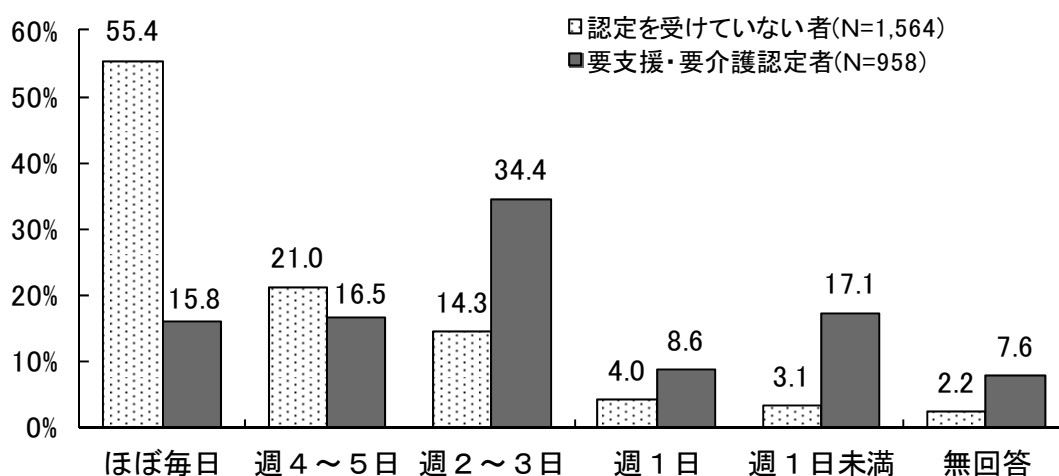
■外出について、認定を受けていない者は「ほぼ毎日」が 55.4%、要支援・要介護認定者は「週 2～3 日」の 34.4%が最も多い

- **認定を受けていない者**では「ほぼ毎日」が 55.4%と過半数を占める。次いで「週 4～5 日」21.0%、「週 2～3 日」14.3%などの順に多い。「週 1 日」は 4.0%、「週 1 日未満」は 3.1%であり、いずれも 1 割以下となっている。
- **要支援・要介護認定者**では「週 2～3 日」の 34.4%が最も多く、次いで「週 1 日未満」17.1%、「週 4～5 日」16.5%、「ほぼ毎日」15.8%が続く。

＜経年比較＞

- 平成 25 年度の調査と比較すると、**認定を受けていない者**では「ほぼ毎日」(52.4%→55.4%)が増加、「週 4～5 日」(19.9%→21.0%)は増加している。
- **要支援・要介護認定者**では「ほぼ毎日」(16.1%→15.8%)は横ばい、「週 4～5 日」(13.3%→16.5%)は増加、「週 2～3 日」(33.8%→34.4%)は微増、「週 1 日」(9.2%→8.6%)は微減、「週 1 日未満」(18.1%→17.1%)は減少となっている。

【 外出の頻度(単数回答) 】



8 就労について

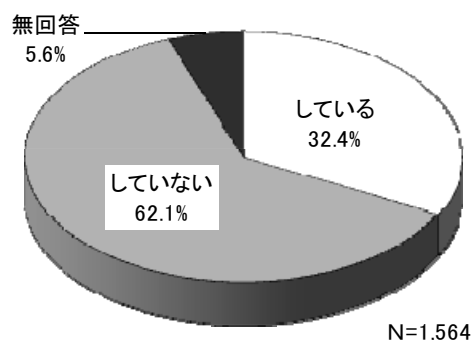
■認定を受けていない者について、仕事を「している」は 32.4%、「していない」が 62.1%

- 認定を受けていない者について、収入を伴う仕事の有無をみると、仕事を「している」は 32.4%、「していない」は 62.1%であり、「していない」が 6 割以上を占めている。
- 年齢別にみると、仕事を「している」割合が最も多いのは 65～69 歳の 49.9%であり、次いで 70～74 歳では 38.2%が「している」状況にある。

＜経年比較＞

- 平成 25 年度の調査と比較すると、「している」(32.5%→32.4%)は横ばい、「していない」(60.6%→62.1%)は増加している。

【 収入を伴う仕事の有無(単数回答) 】 【 認定を受けていない者－収入を伴う仕事の有無(年齢別) 】



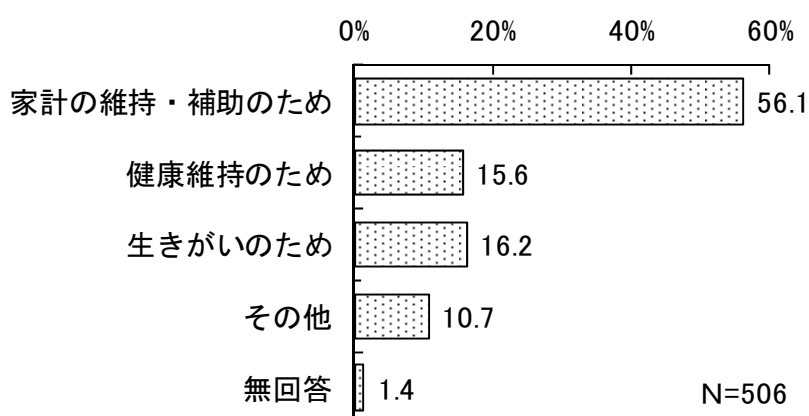
認定を受けていない者		合計	している	していない	無回答
全 体		1,564 (100.0)	506 (32.4)	971 (62.1)	87 (5.6)
年 齢 別	65～69歳	401 (100.0)	200 (49.9)	189 (47.1)	12 (3.0)
	70～74歳	416 (100.0)	159 (38.2)	233 (56.0)	24 (5.8)
	75～79歳	378 (100.0)	101 (26.7)	258 (68.3)	19 (5.0)
	80～84歳	250 (100.0)	37 (14.8)	196 (78.4)	17 (6.8)
	85～89歳	84 (100.0)	5 (6.0)	70 (83.3)	9 (10.7)
	90歳以上	24 (100.0)	2 (8.3)	19 (79.2)	3 (12.5)
	無回答	11 (100.0)	2 (18.2)	6 (54.5)	3 (27.3)

※上段：実数（人）、下段：割合（％）

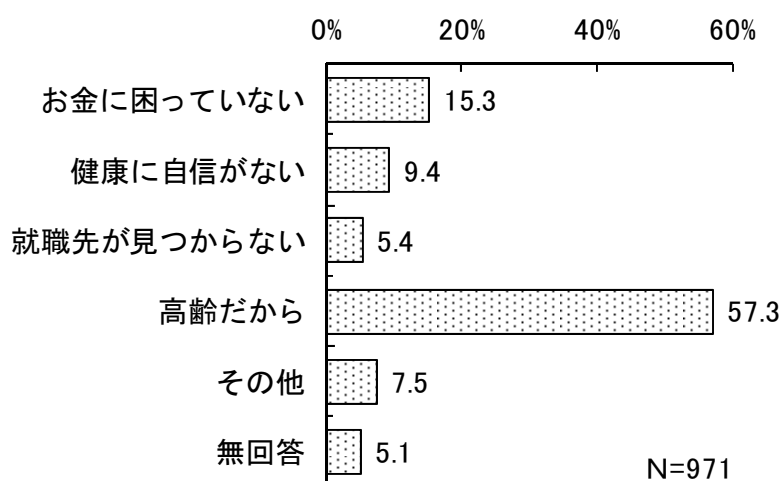
■認定を受けていない者の働いている理由の第1位は「家計の維持・補助のため」、働いていない理由の第1位は「高齢だから」

- 認定を受けていない者について、収入を伴う仕事をしている理由をみると、「家計の維持・補助のため」が56.1%と多くなっている。
- 認定を受けていない者について、収入を伴う仕事をしていない理由をみると、「高齢だから」が57.3%で最も多くなっている。

【 働いている理由(単数回答) 】



【 働いていない理由(単数回答) 】



9 社会参加について

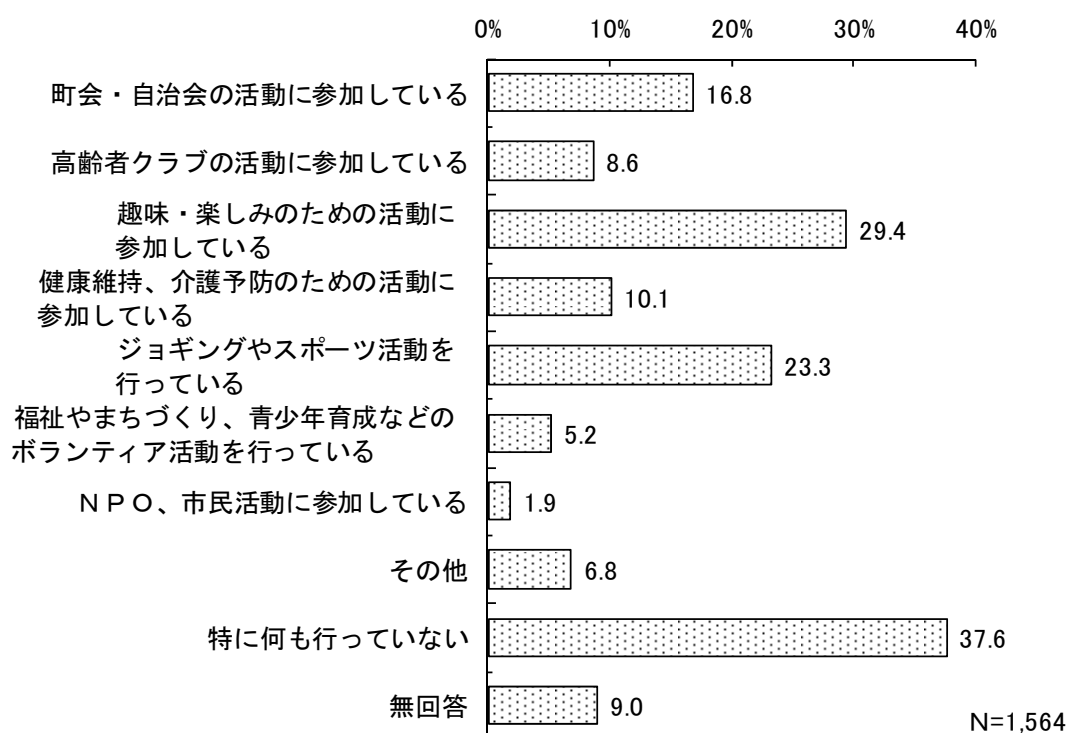
■認定を受けていない者について、参加している割合が多い生きがい・社会参加活動は「趣味・楽しみのための活動」「ジョギングやスポーツ活動」「町会・自治会の活動」

- 認定を受けていない者について、現在参加している生きがい・社会参加活動をみると、「特に何も行っていない」が37.6%であり、何らかの活動をしている（100%から「特に何も行っていない」および「無回答」を引いた数値）人の割合は53.4%となっている。
- 具体的な活動としては「趣味・楽しみのための活動に参加している」29.4%、「ジョギングやスポーツ活動を行っている」23.3%、「町会・自治会の活動に参加している」16.8%などの割合が多くなっている。

《経年比較》

- 平成25年度の調査と比較すると、「町会・自治会の活動に参加している」（16.5%→16.8%）は横ばい、「趣味・楽しみのための活動に参加している」（26.5%→29.4%）、「健康維持、介護予防のための活動に参加している」（7.6%→10.1%）、「ジョギングやスポーツ活動を行っている」（20.1%→23.3%）、「福祉やまちづくり、青少年育成などのボランティア活動を行っている」（3.4%→5.2%）は増加している。
- 「特に何も行っていない」（45.5%→37.6%）は減少している。

【 現在参加している生きがい・社会参加活動（複数回答） 】



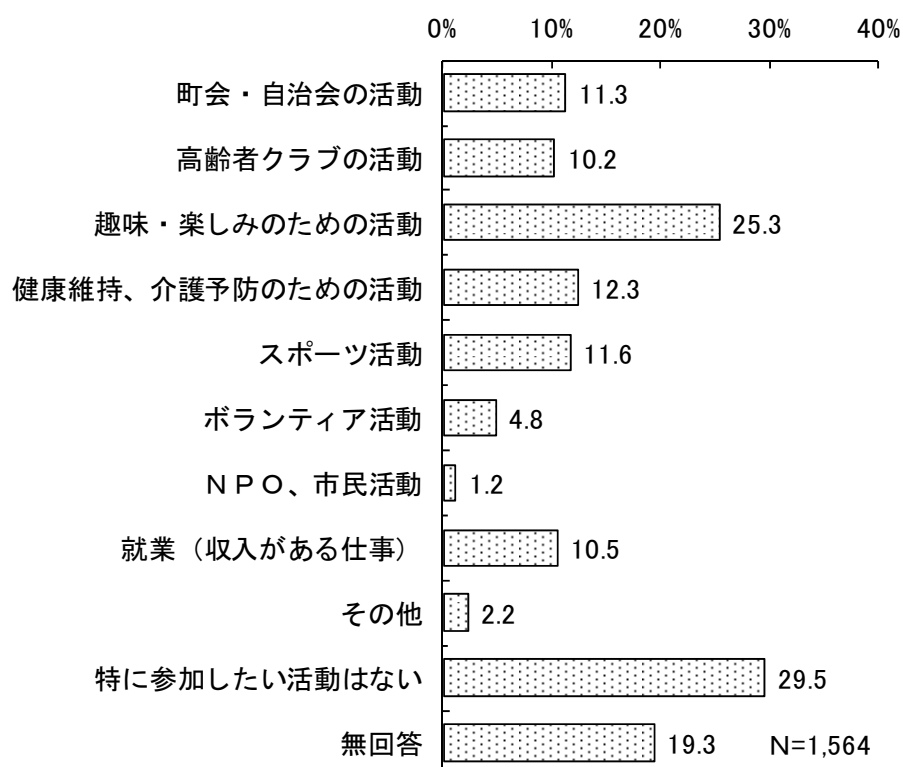
■認定を受けていない者について、参加意向が多い生きがい・社会参加活動は「趣味・楽しみのための活動」「健康維持、介護予防のための活動」「スポーツ活動」「町会・自治会の活動」

- 認定を受けていない者について、今後参加したい生きがい・社会参加活動をみると、「特に参加したい活動はない」が 29.5%であり、何らかの活動をしたい割合（100%から「特に参加したい活動はない」および「無回答」を引いた数値）は 51.2%となっている。
- 具体的に活動したい内容としては「趣味・楽しみのための活動」25.3%、「健康維持、介護予防のための活動」12.3%、「スポーツ活動」11.6%、「町会・自治会の活動」11.3%となっている。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、「趣味・楽しみのための活動」（22.8%→25.3%）、「スポーツ活動」（10.1%→11.6%）は増加、「就業（収入がある仕事）」（10.1%→10.5%）「高齢者クラブの活動」（10.3%→10.2%）、「NPO、市民活動」（1.0%→1.2%）は横ばいであり、これら以外はすべて前回調査の割合を上回っている。
- 「特に参加したい活動はない」（45.6%→29.5%）は減少している。

【 今後参加したい生きがい・社会参加活動（複数回答） 】



10 高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)について

■“知っている”は、認定を受けていない者では 59.1%、要支援・要介護認定者では 70.0%

- **認定を受けていない者**では、「知っているが、利用したことはない」52.4%、次いで「知らない、聞いたことがない」が 36.9%、「知っているし、利用している（利用したことがある）」6.7%と続いている。高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）の利用の有無にかかわらず、“知っている”は 59.1%である。
- **要支援・要介護認定者**では、「知っているし、利用している（利用したことがある）」が 43.8%で最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」26.2%、「知らない、聞いたことがない」24.9%となっている。高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）の利用の有無にかかわらず、“知っている”は 70.0%となっている。
- **認定を受けていない者**に比べて、**要支援・要介護認定者**の方が“知っている”割合が多い。

《要支援・要介護度別》

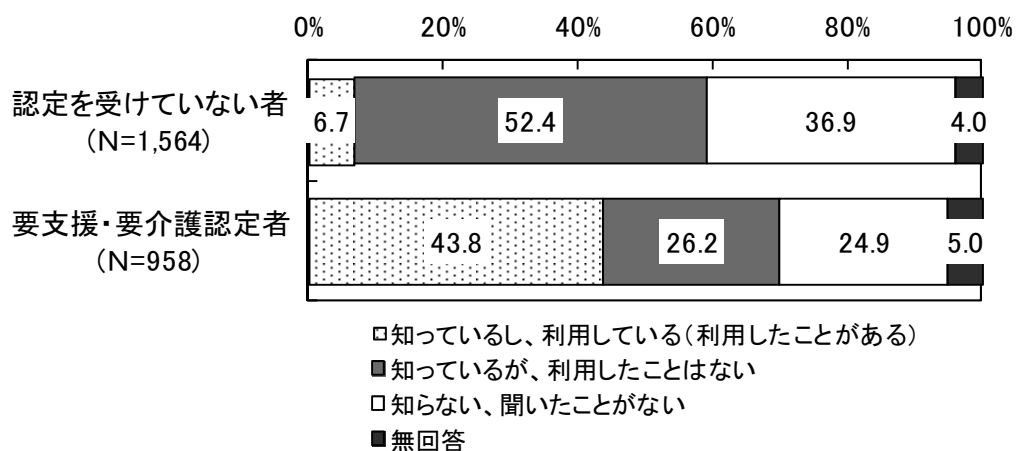
- 要支援・要介護度別にみると、要支援1および要支援2において、「知っているし、利用している（利用したことがある）」割合が5割台となっている。

《経年比較》

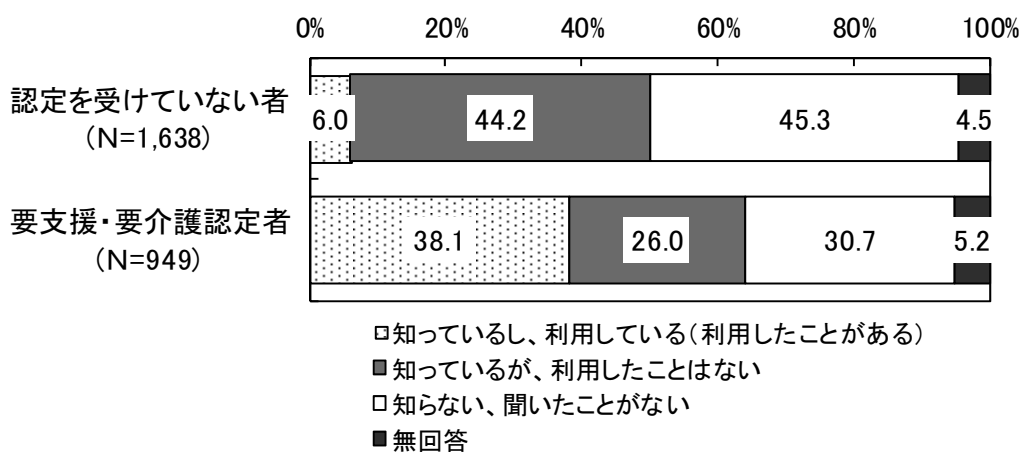
- 平成25年度の調査と比較すると、「知っているし、利用している（利用したことがある）」は、**認定を受けていない者**（6.0%→6.7%）は微増、**要支援・要介護認定者**（38.1%→43.8%）は増加している。
- 「知っているが、利用したことはない」は、**認定を受けていない者**（44.2%→52.4%）は増加、**要支援・要介護認定者**（26.0%→26.2%）は横ばいである。
- 利用の有無にかかわらず“知っている”という割合は、**認定を受けていない者**（50.2%→59.1%）、**要支援・要介護認定者**（64.1%→70.0%）ともに増加している。

【 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）の認知度（単数回答） 】

<今回調査>



<前回調査>



【 要支援・要介護認定者－高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)の認知度(要支援・要介護度別) 】

要支援・ 要介護認定者		合計	知っているし、 利用している (利用したこと がある)	知っている が、利用し たことは ない	知らない、 聞いたこと がない	無回答
全 体		958 (100.0)	420 (43.8)	251 (26.2)	239 (24.9)	48 (5.0)
要支援・ 要介護度別	要支援1	136 (100.0)	72 (52.9)	34 (25.0)	25 (18.4)	5 (3.7)
	要支援2	184 (100.0)	95 (51.6)	46 (25.0)	32 (17.4)	11 (6.0)
	要介護1	154 (100.0)	57 (37.0)	38 (24.7)	50 (32.5)	9 (5.8)
	要介護2	233 (100.0)	105 (45.1)	61 (26.2)	58 (24.9)	9 (3.9)
	要介護3	98 (100.0)	42 (42.9)	31 (31.6)	23 (23.5)	2 (2.0)
	要介護4	62 (100.0)	22 (35.5)	14 (22.6)	21 (33.9)	5 (8.1)
	要介護5	52 (100.0)	13 (25.0)	18 (34.6)	16 (30.8)	5 (9.6)
	無回答	39 (100.0)	14 (35.9)	9 (23.1)	14 (35.9)	2 (5.1)

※上段：実数（人）、下段：割合（％）

11 介護予防について

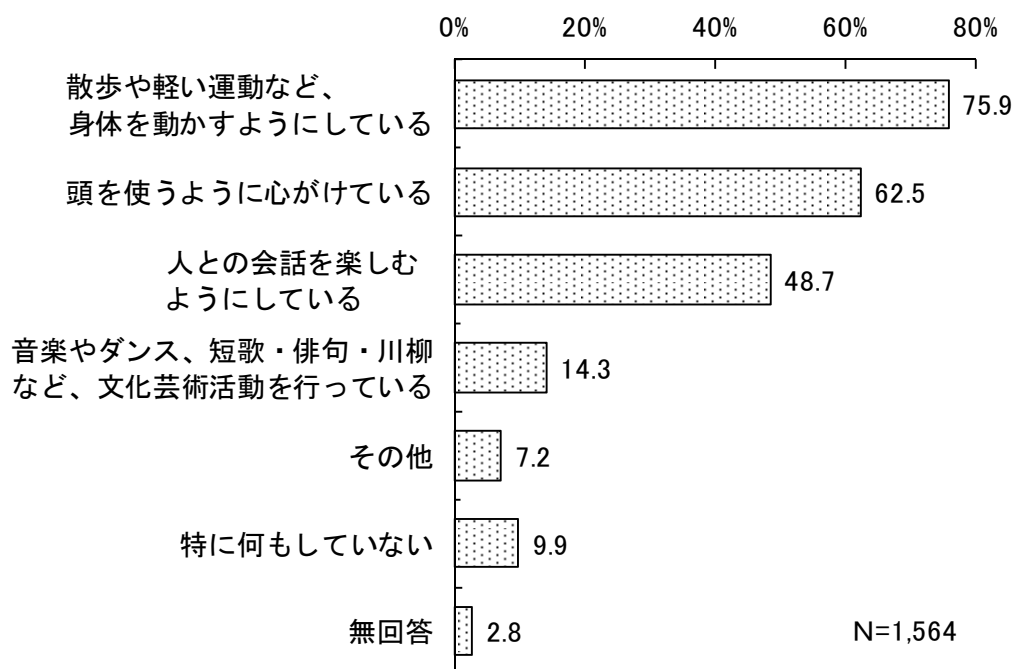
■認定を受けていない者は 87.3%が日常生活で何らかの介護予防に取り組んでいる

- **認定を受けていない者**について、日常生活で行っている介護予防をみると、「散歩や軽い運動など、身体を動かすようにしている」が最も多く、75.9%が取り組んでいる。
- 次いで「頭を使うように心がけている」62.5%、「人との会話を楽しむようにしている」48.7%などが続いている。
- 「特に何もしていない」は 9.9%で、何かをしている人の割合（100%から「特に何もしていない」および「無回答」を引いた数値）は 87.3%となっている。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、「散歩や軽い運動など、身体を動かすようにしている」（73.9%→75.9%）、「頭を使うように心がけている」（57.6%→62.5%）、「人との会話を楽しむようにしている」（44.8%→48.7%）、「音楽やダンス、短歌・俳句・川柳など、文化芸術活動を行っている」（12.1%→14.3%）はいずれも増加している。
- 「特に何もしていない」（10.8%→9.9%）は微減している。

【 日常生活で行っている介護予防（複数回答） 】



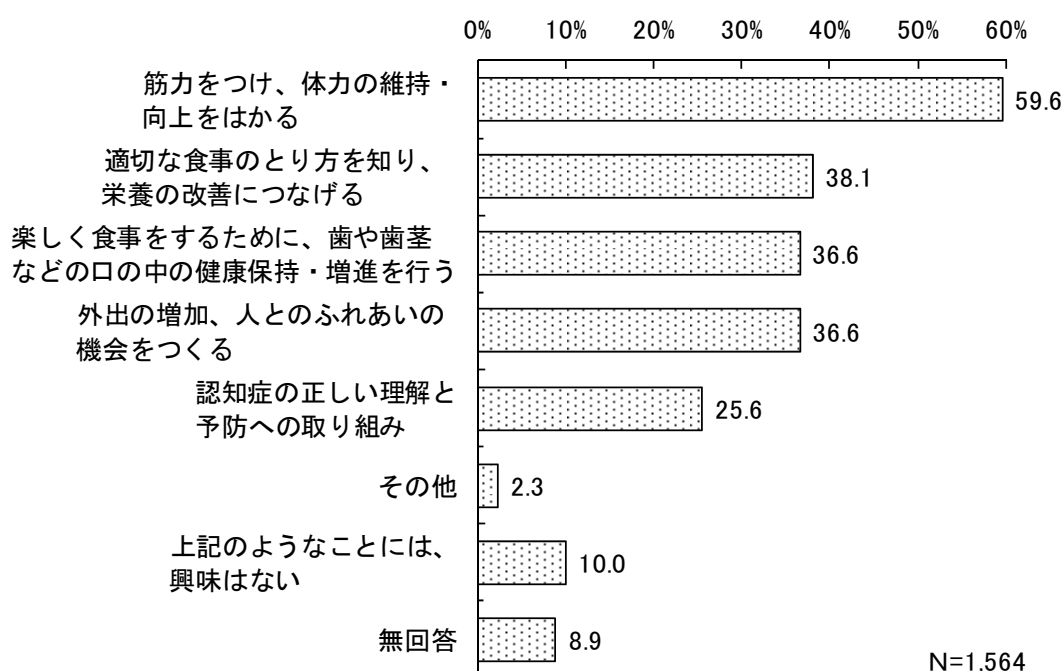
■認定を受けていない者は81.1%が何らかの介護予防に興味を持っている

- **認定を受けていない者**について、介護予防として興味のある活動をみると、「筋力をつけ、体力の維持・向上をはかる」は59.6%が興味があると回答している。
- 次いで「適切な食事のとり方を知り、栄養の改善につなげる」38.1%、「楽しく食事をするために、歯や歯茎などの口の中の健康保持・増進を行う」36.6%、「外出の増加、人とのふれあいの機会をつくる」36.6%などについて、3割以上が興味を持っている結果となっている。
- 「上記のようなことには、興味はない」は10.0%であり、反対に、何か興味がある人の割合（100%から「上記のようなことには、興味はない」および「無回答」を引いた数値）は81.1%となっている。

《経年比較》

- 平成25年度の調査と比較すると、「筋力をつけ、体力の維持・向上をはかる」(56.7%→59.6%)、「適切な食事のとり方を知り、栄養の改善につなげる」(36.6%→38.1%)、「外出の増加、人とのふれあいの機会をつくる」(31.6%→36.6%)、「認知症の正しい理解と予防への取り組み」(21.7%→25.6%)は増加、「楽しく食事をするために、歯や歯茎などの口の中の健康保持・増進を行う」(36.4%→36.6%)は横ばいである。
- 「上記のようなことには興味はない」(15.1%→10.0%)は減少している。

【 介護予防として興味のある活動(複数回答) 】



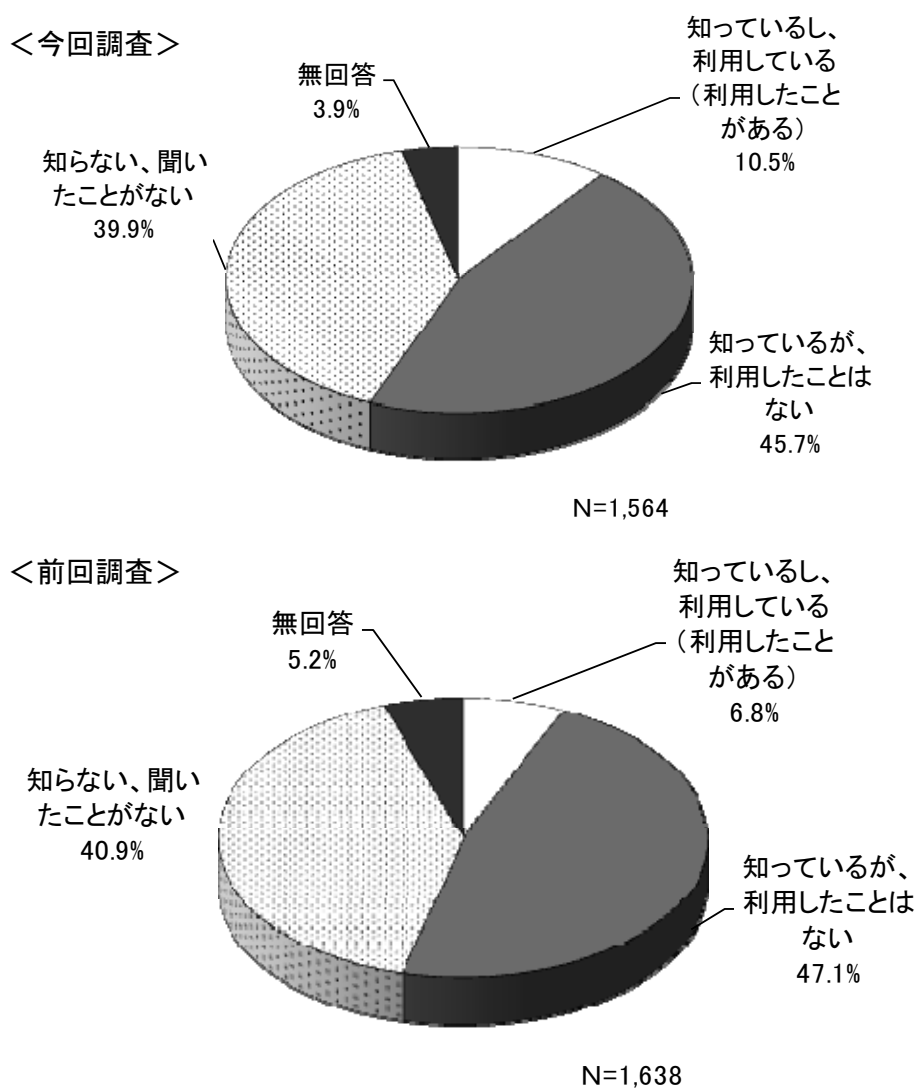
■認定を受けていない者が介護予防事業を“知っている”割合は 56.2%

- **認定を受けていない者**について、介護予防事業の認知度をみると、「知っているが、利用したことはない」45.7%、次いで「知らない、聞いたことがない」が39.9%、「知っているし、利用している（利用したことがある）」が10.5%で続いている。
- 介護予防事業の利用の有無にかかわらず、“知っている”という割合はあわせて56.2%となっている。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、「知っているし、利用している（利用したことがある）」（6.8%→10.5%）は増加であり、「知っているが、利用したことはない」（47.1%→45.7%）、「知らない、聞いたことがない」（40.9%→39.9%）は減少している。

【 介護予防事業の認知度(単数回答) 】

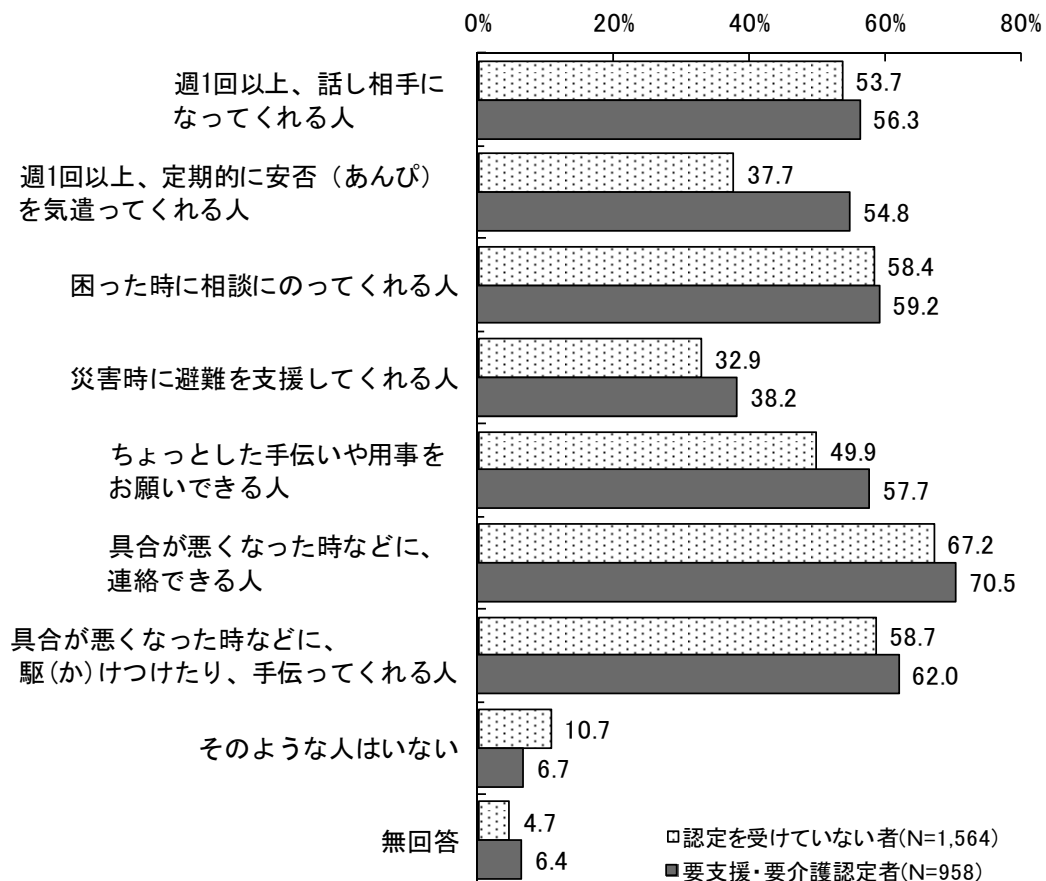


12 日常生活の支援について

■何らかの支援者がいる割合は、認定を受けていない者では 84.6%、要支援・要介護認定者では 86.9%

- 認定を受けていない者**について、身近な地域に生活の支援者がいるかをみると、「そのような人はいない」が 10.7%であり、何らかの支援者がいる割合（100%から「そのような人はいない」および「無回答」を引いた数値）は 84.6%となっている。具体的な支援者としては「具合が悪くなった時などに、連絡できる人」が 67.2%で最も多い。反対に最も少ない割合は、「災害時に避難を支援してくれる人」の 32.9%となっている。
- 要支援・要介護認定者**について、身近な地域に生活の支援者がいるかをみると、「そのような人はいない」が 6.7%であり、何らかの支援者がいる割合（100%から「そのような人はいない」および「無回答」を引いた数値）は 86.9%となっている。具体的な支援者としては「具合が悪くなった時などに、連絡できる人」が 70.5%で最も多く、「災害時に避難を支援してくれる人」が 38.2%で最も少なくなっている。

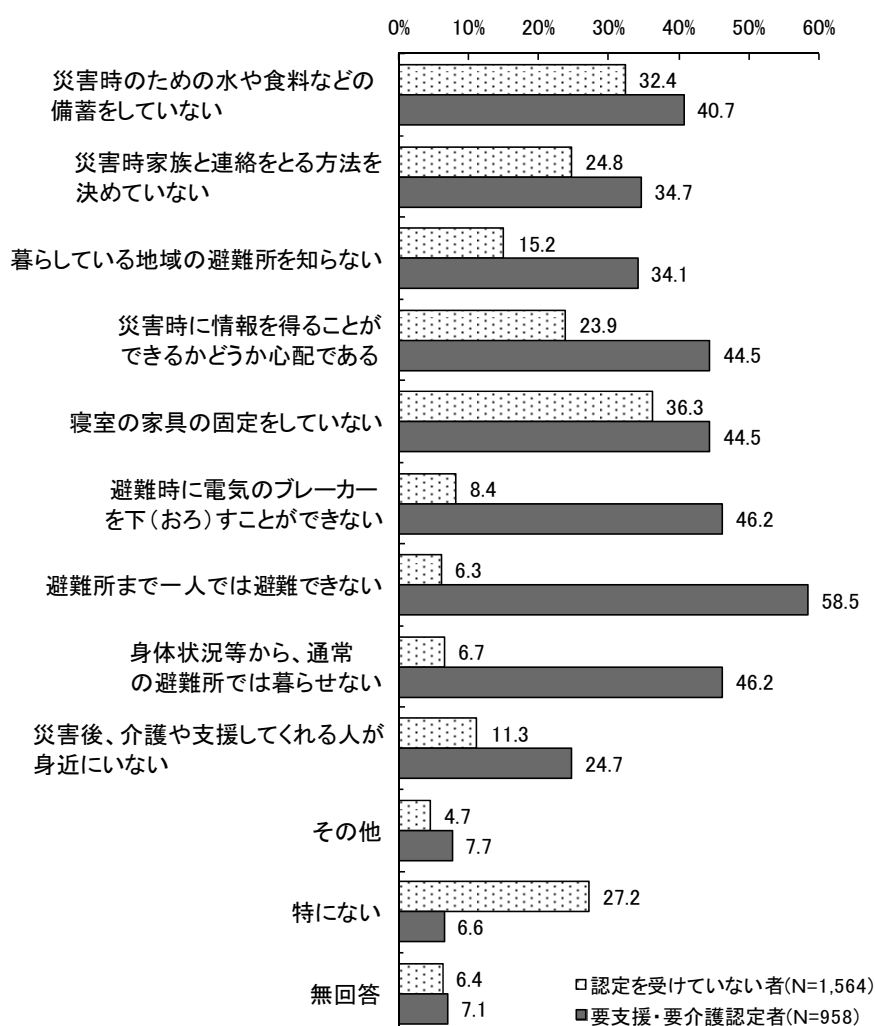
【 身近な地域の生活の支援者（複数回答） 】



■要支援・要介護認定者は「避難所まで一人では避難できない」が58.5%

- **認定を受けていない者**では「寝室の家具の固定をしていない」が36.3%で最も多く、次いで「災害時のための水や食料などの備蓄をしていない」の32.4%が多くなっている。
- **要支援・要介護認定者**では「避難所まで一人では避難できない」が58.5%であり、他を大きく上回っている。「災害時のための水や食料などの備蓄をしていない」「災害時に情報を得ることができるかどうか心配である」「寝室の家具の固定をしていない」「避難時に電気のブレーカーを下（おろ）すことができない」「身体状況等から、通常の避難所では暮らせない」についても、4割以上が当てはまると回答している。

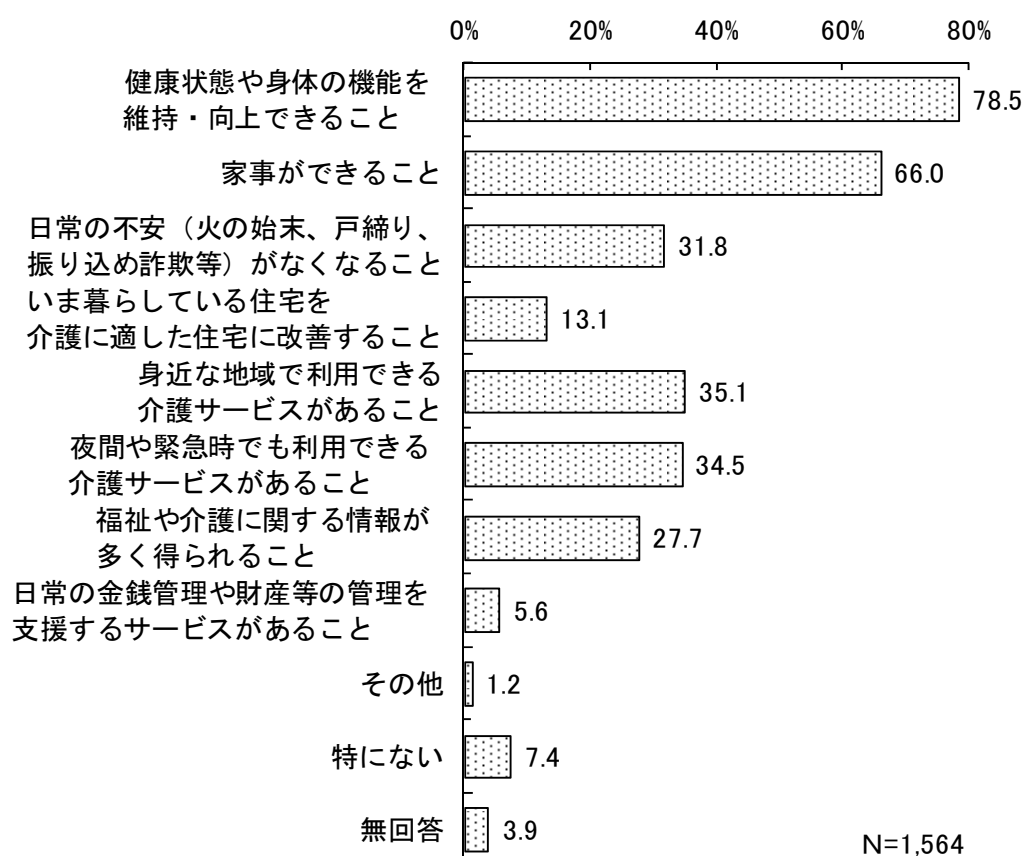
【 災害時の対応や避難等について（複数回答） 】



■認定を受けていない者が考える在宅生活の継続に必要な条件は、自身の健康等の維持・向上などに加えて、「家事ができること」など、回答者自身に関する条件をあげた割合が多い

- **認定を受けていない者**について、在宅生活の継続に必要な条件をみると、「健康状態や身体の機能を維持・向上できること」78.5%、「家事ができること」66.0%など、回答者自身に関する条件をあげた割合が6割を超えて多くなっている。
- 次いで「身近な地域で利用できる介護サービスがあること」35.1%、「夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがあること」34.5%、「日常の不安（火の始末、戸締り、振り込め詐欺等）がなくなること」31.8%となり、“身近なサービス・緊急対応・日常の不安解消”などの支援体制について、3割以上が在宅生活の継続に必要な条件としてあげている。

【在宅生活の継続に必要な条件（複数回答）】



13 介護保険サービスについて(居宅)

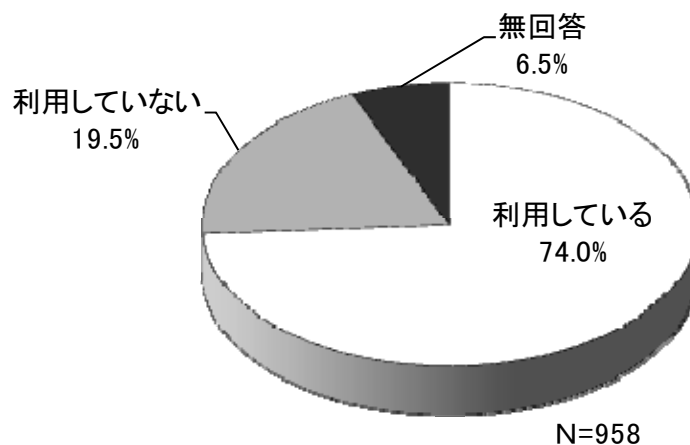
■要支援・要介護認定者について、介護サービス、介護予防サービスを「利用している」は 74.0%、「利用していない」は 19.5%

- **要支援・要介護認定者**について、介護サービス、介護予防サービスの利用状況を見ると、「利用している」が 74.0%を占め、「利用していない」は 19.5%となっている。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、「利用している」(77.9%→74.0%)は減少している。

【 介護サービス、介護予防サービスの利用状況(単数回答) 】



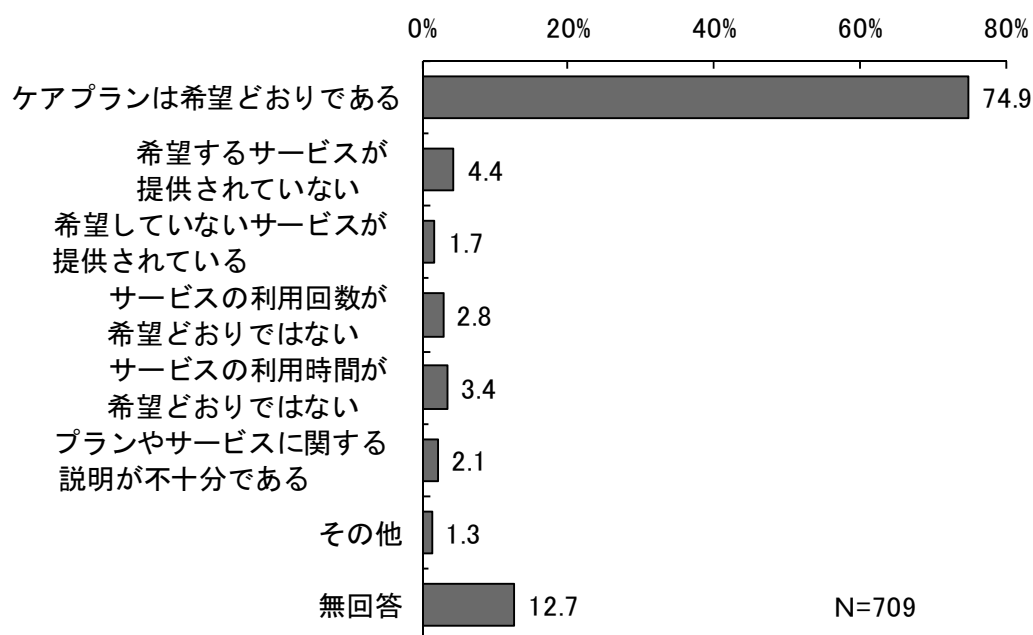
■要支援・要介護認定者について、「ケアプランは希望どおりである」が74.9%、「介護サービスに満足している」は72.5%

- 要支援・要介護認定者で介護サービス、介護予防サービスを利用している人に、ケアプランの満足度をたずねたところ、「ケアプランは希望どおりである」が74.9%を占めている。
- 介護サービスの満足度をたずねたところ、「介護サービスに満足している」は72.5%である。

《経年比較》

- 平成25年度の調査と比較すると、「ケアプランは希望どおりである」（79.4%→74.9%）は減少している。

【 ケアプランの満足度(複数回答) 】



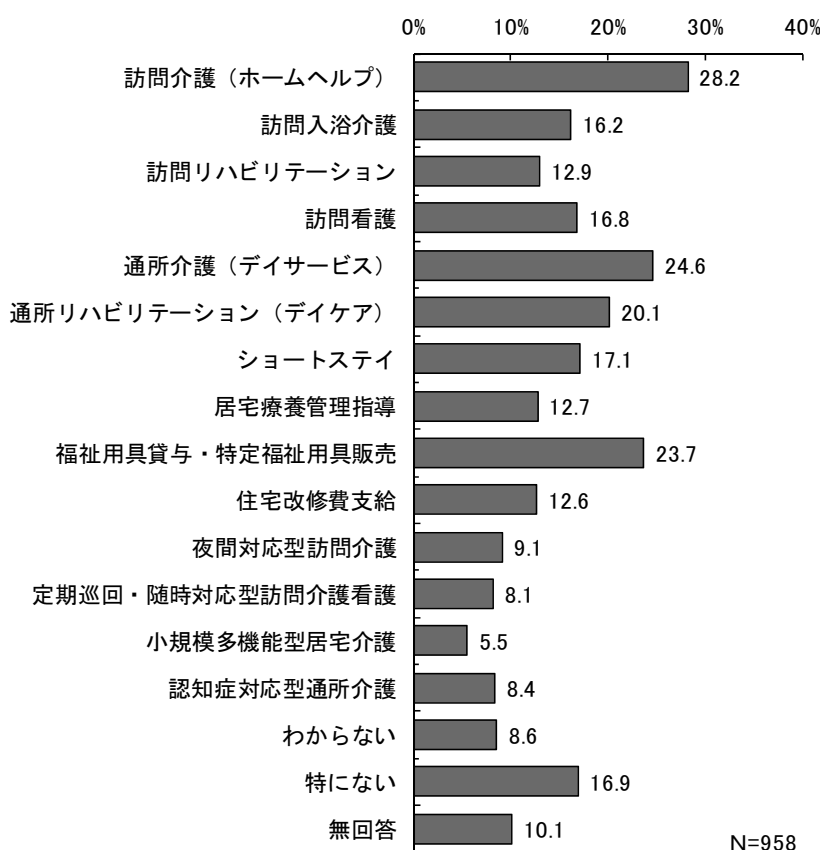
■要支援・要介護認定者が自宅で生活する上で利用したいサービスは、「訪問介護（ホームヘルプ）」が最も多い

- 要支援・要介護認定者について、自宅で生活する上で利用したいサービスをみると、「訪問介護（ホームヘルプ）」が28.2%で最も多くなっている。
- 次いで「通所介護（デイサービス）」24.6%、「福祉用具貸与・特定福祉用具販売」23.7%、「通所リハビリテーション（デイケア）」20.1%などが2割を超えて利用意向が多いサービスとなっている。

《経年比較》

- 平成25年度の調査と比較すると、「訪問介護（ホームヘルプ）」（32.0%→28.2%）、「通所介護（デイサービス）」（29.3%→24.6%）は減少、「福祉用具貸与・特定福祉用具販売」は（22.1%→23.7%）増加となっている。

【 自宅で生活する上で利用したいサービス（複数回答） 】



※「通所介護（デイサービス）」「ショートステイ」「居宅療養管理指導」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「小規模多機能型居宅介護」「認知症対応型通所介護」の選択肢は、調査票では（ ）書きで説明を付しているが、報告書では掲載を省略している

14 介護保険サービスについて(施設等)

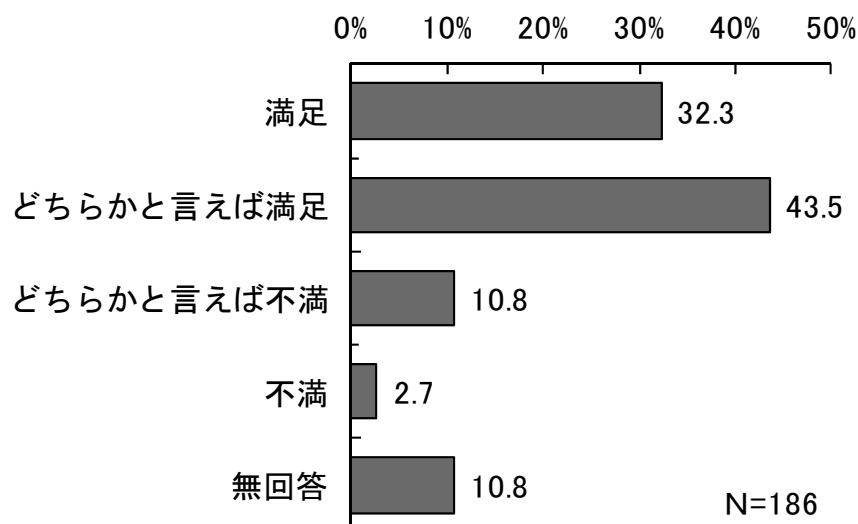
■要支援・要介護認定者について、施設等に入所している人の 75.8%が施設等での生活に“満足”

- **要支援・要介護認定者**で施設等に入所している人について、施設等での生活の満足度をみると、「どちらかと言えば満足」の 43.5%が最も多く、次いで「満足」が 32.3%となり、あわせて 75.8%が“満足”と回答している。
- 「どちらかと言えば不満」は 10.8%、「不満」は 2.7%であり、あわせて 13.5%が“不満足”な状況にある。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、「満足」(29.8%→32.3%)は増加、「どちらかと言えば満足」(46.8%→43.5%)は減少、「どちらかと言えば不満」(7.8%→10.8%)は増加、「不満」(2.0%→2.7%)は微増となっている。

【 施設等での生活の満足度(単数回答) 】



15 今後の生活の希望について

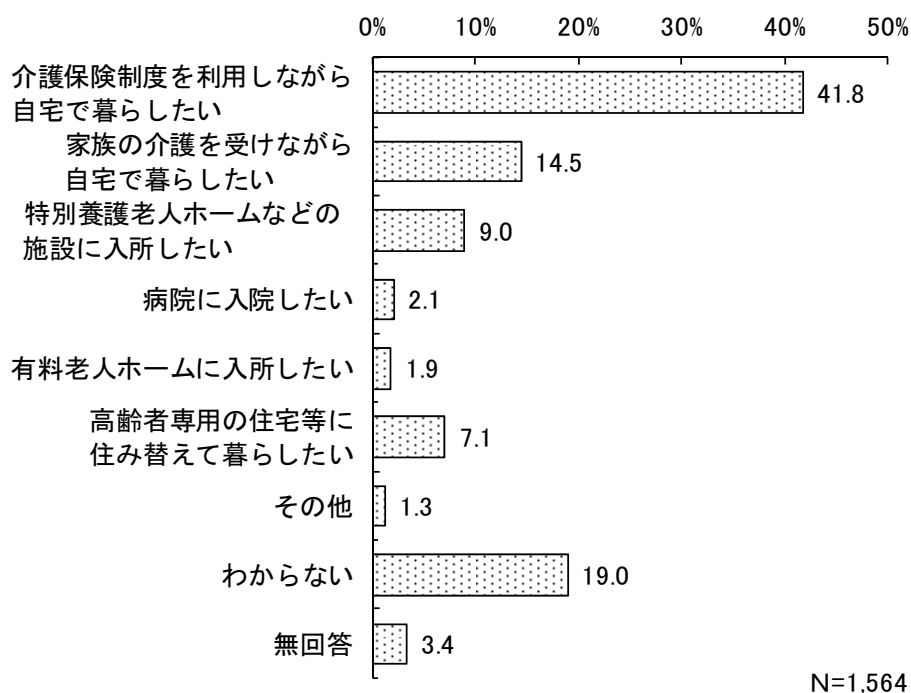
■認定を受けていない者は“自宅”で暮らしたいという希望があわせて 56.3%

- **認定を受けていない者**について、介護が必要となった場合の暮らし方をみると、「介護保険制度を利用しながら自宅で暮らしたい」41.8%、「家族の介護を受けながら自宅で暮らしたい」14.5%など、“自宅”で暮らしたいという希望があわせて56.3%となっている。
- 次いで「特別養護老人ホームなどの施設に入所したい」9.0%、「高齢者専用の住宅等に組み替えて暮らしたい」7.1%、「病院に入院したい」2.1%、「有料老人ホームに入所したい」1.9%が続くが、「わからない」という意見も19.0%を占めている。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、「介護保険制度を利用しながら自宅で暮らしたい」（40.5%→41.8%）、「家族の介護を受けながら自宅で暮らしたい」（13.2%→14.5%）は増加、「特別養護老人ホームなどの施設に入所したい」（8.4%→9.0%）は微増している。

【 認定を受けていない者が希望する今後の暮らし方(単数回答) 】



※「高齢者専用の住宅等に組み替えて暮らしたい」の選択肢は、調査票では（ ）書きで説明を付しているが、報告書では掲載を省略している

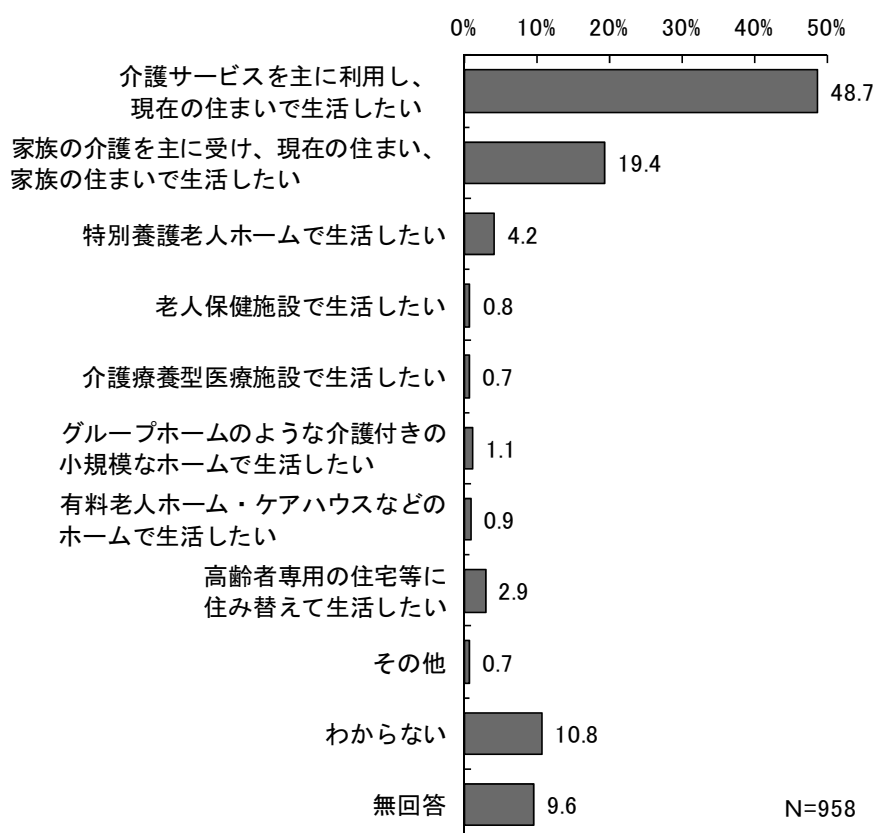
■要支援・要介護認定者は“現在の住まいで生活したい”という希望が 68.1%

- **要支援・要介護認定者**について、希望する今後の暮らし方をみると、「介護サービスを主に利用し、現在の住まいで生活したい」の 48.7%が最も多く、次いで「家族の介護を主に受け、現在の住まい、家族の住まいで生活したい」が 19.4%となっている。これらをあわせた“現在の住まいで生活したい”という希望は 68.1%となるが、一方で、「わからない」という意見も 10.8%である。
- 施設等で暮らしたいという意見では、「特別養護老人ホームで生活したい」4.2%、「高齢者専用の住宅等に住み替えて生活したい」2.9%などとなっている。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、「介護サービスを主に利用し、現在の住まいで生活したい」（47.6%→48.7%）は増加、「家族の介護を主に受け、現在の住まい、家族の住まいで生活したい」（23.4%→19.4%）、「特別養護老人ホームで生活したい」（5.2%→4.2%）は減少している。

【 要支援・要介護認定者が希望する今後の暮らし方(単数回答) 】



※「高齢者専用の住宅等に住み替えて生活したい」の選択肢は、調査票では（ ）書きで説明を付しているが、報告書では掲載を省略している

16 介護者の状況

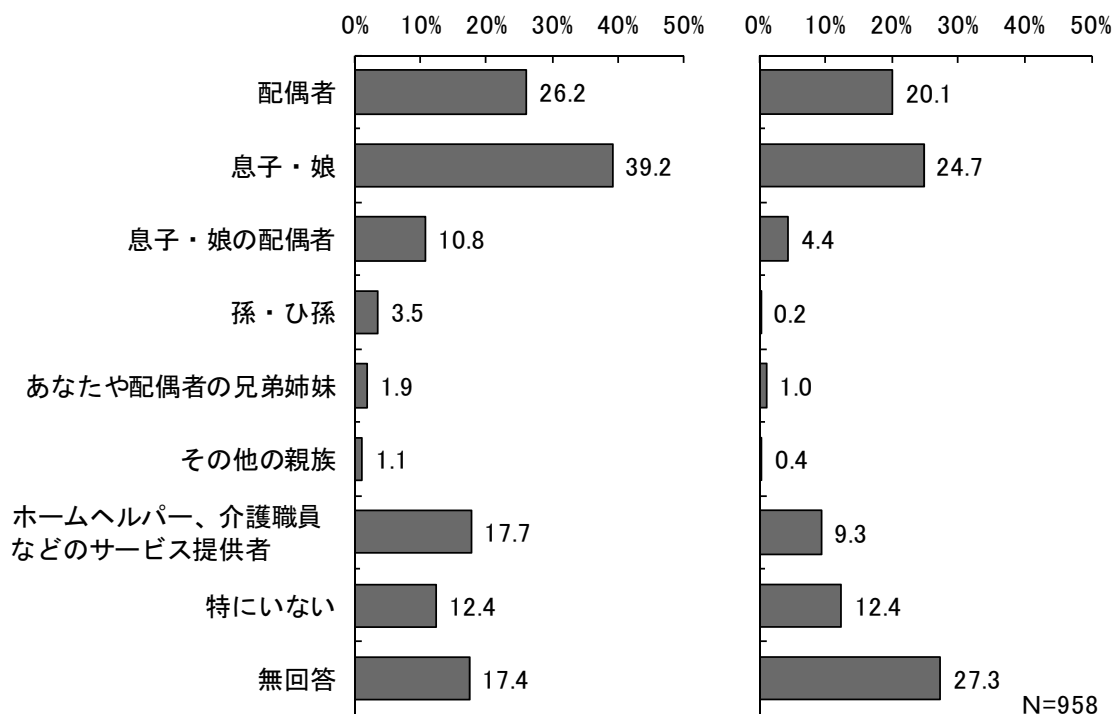
■要支援・要介護認定者の主な介護者は「息子・娘」24.7%、「配偶者」20.1%の割合が多い

- **要支援・要介護認定者**について、あて名のご本人を介護している人の続柄をみると、介護者（介護に携わっている人：複数回答）は「息子・娘」「配偶者」「ホームヘルパー、介護職員などのサービス提供者」の割合が多く、「息子・娘」は39.2%が介護にかかわっている結果となっている。
- 主な介護者（単数回答）になると、「息子・娘」24.7%、「配偶者」20.1%、「ホームヘルパー、介護職員などのサービス提供者」9.3%、「息子・娘の配偶者」4.4%となっており、家族や親族が主な介護者である割合（100%から「ホームヘルパー、介護職員などのサービス提供者」と「特にいない」と「無回答」を引いた数値）は51.0%である。

《経年比較》

- 平成25年度の調査と比較すると、主な介護者について、「配偶者」（24.9%→20.1%）、「息子・娘」（29.7%→24.7%）は減少となっている。

【 介護に携わっている人(複数回答) 】 【 主に介護している人(単数回答) 】



※左図：介護に携わっている人すべてをあらわしており、一人とは限らず複数選ぶことができる

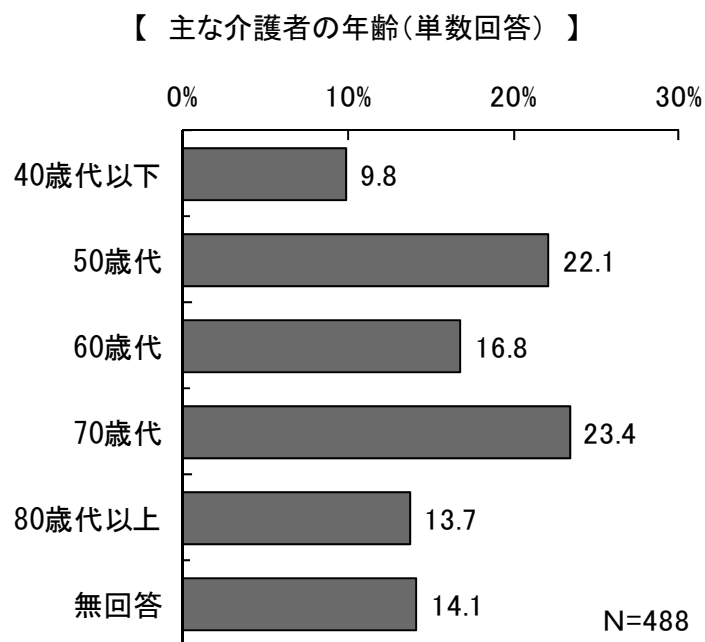
※右図：介護に携わっている人のうち、主に介護している人

■要支援・要介護認定者の主な介護者は 50～70 歳代である割合が 62.3%、平均年齢は 65.6 歳

- 要支援・要介護認定者を主に介護している人の年齢をみると、「70 歳代」23.4%、「50 歳代」22.1%、「60 歳代」16.8%などの割合が多く、50～60 歳代である割合は全体の 38.9%、50～70 歳代である割合は全体の 62.3%を占めている。
- 主な介護者の平均年齢は 65.6 歳、最高年齢は 92 歳となっている。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、主な介護者の平均年齢は 64.6 歳から 65.6 歳にあがっている。



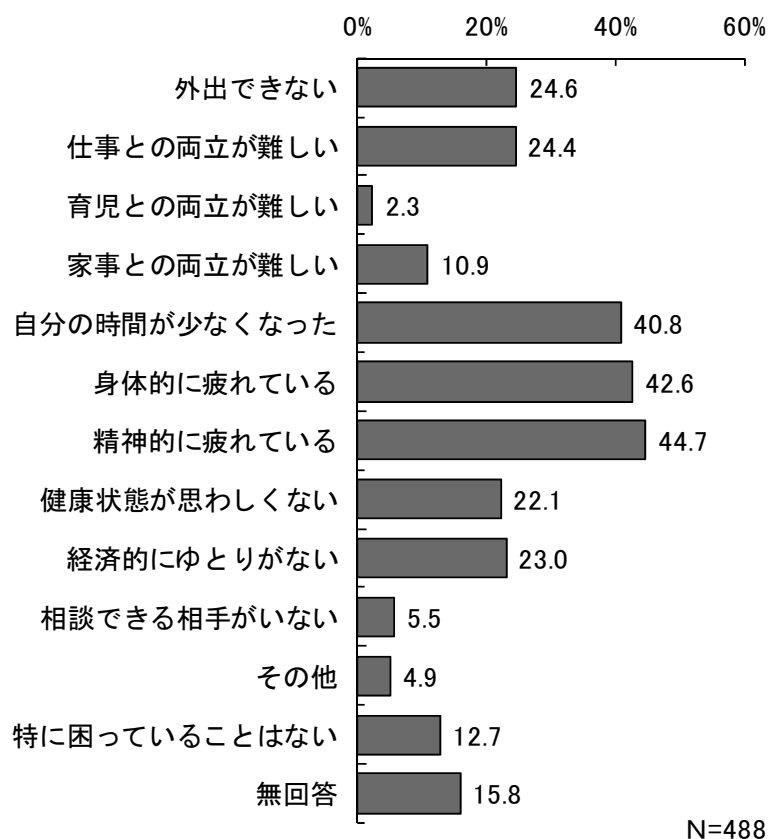
■要支援・要介護認定者の主な介護者が介護で困っていることがあると回答した割合は71.5%、具体的には「精神的に疲れている」の44.7%が最も多い

- 要支援・要介護認定者を主に介護している人が困っていることは、「精神的に疲れている」44.7%、「身体的に疲れている」42.6%、「自分の時間が少なくなった」40.8%が4割を超えて多い割合になっている。

《経年比較》

- 平成25年度の調査と比較すると、「仕事との両立が難しい」(22.1%→24.4%)、「特に困っていることはない」(11.5%→12.7%)が増加、「育児との両立が難しい」(2.2%→2.3%)横ばいとなっている。「外出できない」(35.1%→24.6%)、「家事との両立が難しい」(13.4%→10.9%)、「自分の時間が少なくなった」(43.0%→40.8%)、「身体的に疲れている」(45.2%→42.6%)、「精神的に疲れている」(47.5%→44.7%)、「健康状態が思わしくない」(26.8%→22.1%)、「相談できる相手がいない」(9.9%→5.5%)は減少している。「経済的にゆとりがない」(23.6%→23.0%)は微減である。

【 主な介護者が困っていること(複数回答) 】



17 介護保険料等について

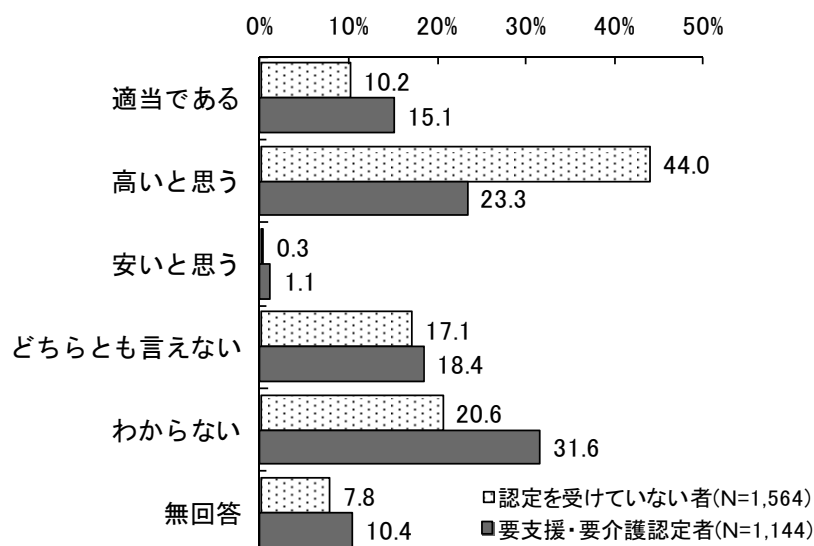
■「高いと思う」は、認定を受けていない者では 44.0%、要支援・要介護認定者では 23.3%

- 認定を受けていない者について、介護保険料に関する考え方をみると、「高いと思う」が 44.0%を占めている。次いで「わからない」20.6%、「どちらとも言えない」17.1%の順に多くなっている。
- 要支援・要介護認定者では「わからない」の 31.6%が最も多く、次いで「高いと思う」23.3%、「どちらとも言えない」18.4%、「適当である」15.1%となっている。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、認定を受けていない者について、「適当である」(7.8%→10.2%) は増加、「高いと思う」(45.7%→44.0%)、「わからない」(21.7%→20.6%) は減少、「どちらとも言えない」(17.0%→17.1%)、「安いと思う」(0.2%→0.3%) は横ばいとなっている。
- 要支援・要介護認定者では「高いと思う」(19.0%→23.3%) は増加、「安いと思う」(0.5%→1.1%) は微増、「わからない」(36.4%→31.6%) は減少、「適当である」(15.9%→15.1%)、「どちらとも言えない」(19.3%→18.4%) は微減となっている。

【 介護保険料に関する考え方(単数回答) 】



※上記の要支援・要介護認定者の集計は、問 27 (要支援・要介護認定者で在宅の者)、問 37 (要支援・要介護認定者で施設等入所の者) を合計して集計した結果である

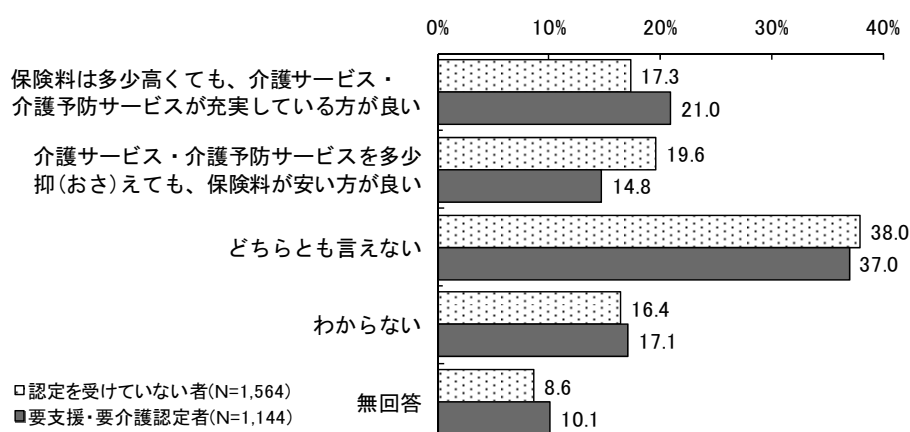
■認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに「どちらとも言えない」が最も多い

- **認定を受けていない者**では「どちらとも言えない」が 38.0%を占め、次いで「介護サービス・介護予防サービスを多少抑（おさ）えても、保険料が安い方がよい」19.6%、「保険料は多少高くても、介護サービス・介護予防サービスが充実している方がよい」17.3%、「わからない」16.4%の順になっている。
- **要支援・要介護認定者**では、**認定を受けていない者**と同様に、「どちらとも言えない」が 37.0%を占めて最も多いが、次いで「保険料は多少高くても、介護サービス・介護予防サービスが充実している方がよい」21.0%、「わからない」17.1%、「介護サービス・介護予防サービスを多少抑（おさ）えても、保険料が安い方がよい」14.8%となっている。

《経年比較》

- 平成 25 年度の調査と比較すると、**認定を受けていない者**では「保険料は多少高くても、介護サービス・介護予防サービスが充実している方がよい」(17.4%→17.3%)は横ばい、「介護サービス・介護予防サービスを多少抑（おさ）えても、保険料が安い方がよい」(22.4%→19.6%)は減少、「どちらとも言えない」(35.7%→38.0%)は増加している。
- **要支援・要介護認定者**では「保険料は多少高くても、介護サービス・介護予防サービスが充実している方がよい」(22.7%→21.0%)は減少、「介護サービス・介護予防サービスを多少抑（おさ）えても、保険料が安い方がよい」(12.4%→14.8%)は増加、「どちらとも言えない」(36.7%→37.0%)は横ばいである。

【 介護保険料のあり方(単数回答) 】



※上記の要支援・要介護認定者の集計は、問 28（要支援・要介護認定者で在宅の者）、問 38（要支援・要介護認定者で施設等入所の者）を合計して集計した結果である

18 区の高齢者施策等について

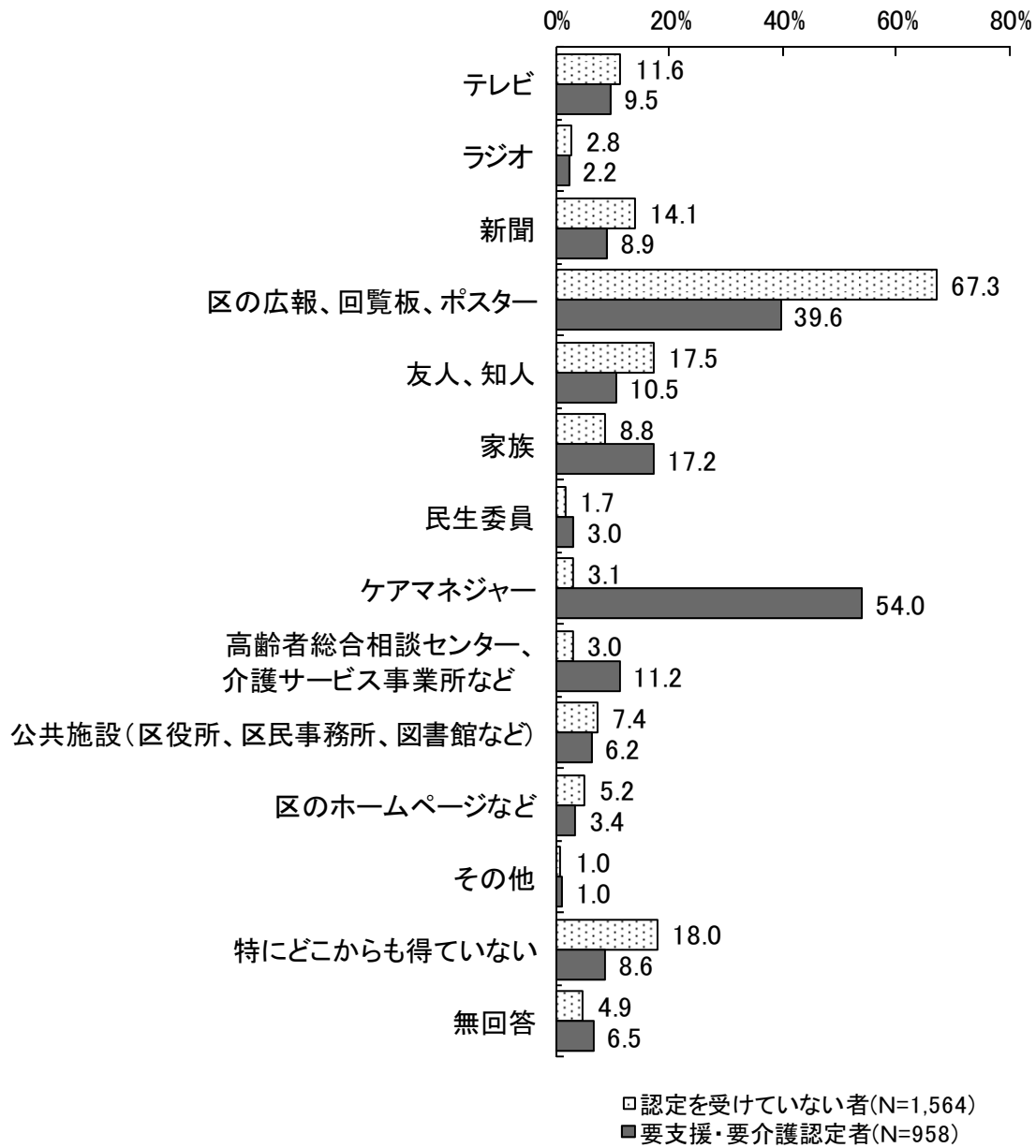
■認定を受けていない者は「区の広報、回覧板、ポスター」、要支援・要介護認定者は「ケアマネジャー」が最も多い

- 福祉、介護の情報源をみると、**認定を受けていない者**では「区の広報、回覧板、ポスター」の67.3%が突出して多く、次いで「友人、知人」17.5%、「新聞」14.1%、「テレビ」11.6%が続いている。「特にどこからも得ていない」という人も18.0%となっている。
- 要支援・要介護認定者**では「ケアマネジャー」が54.0%と5割を超えて多く、次いで「区の広報、回覧板、ポスター」39.6%、「家族」17.2%となっている。

《経年比較》

- 平成25年度の調査と選択肢が同一ではないため参考までにとどめるが、**認定を受けていない者**で増加した選択肢は、「テレビ」(10.0%→11.6%)、「区の広報、回覧板、ポスター」(62.8%→67.3%)、「友人、知人」(15.8%→17.5%)、「ケアマネジャー」(2.1%→3.1%)、「公共施設(区役所、区民事務所、図書館など)」(3.5%→7.4%)、微増した選択肢は「区のホームページなど」(4.6%→5.2%)。「ラジオ」(2.3%→2.8%)は横ばいである。
- 要支援・要介護認定者**で増加した選択肢は、「テレビ」(7.2%→9.5%)、「ラジオ」(1.2%→2.2%)、「区の広報、回覧板、ポスター」(35.2%→39.6%)、「民生委員」(1.8%→3.0%)、「公共施設(区役所、区民事務所、図書館など)」(1.5%→6.2%)。「新聞」(8.4%→8.9%)は横ばいである。

【 福祉、介護の情報源(複数回答) 】



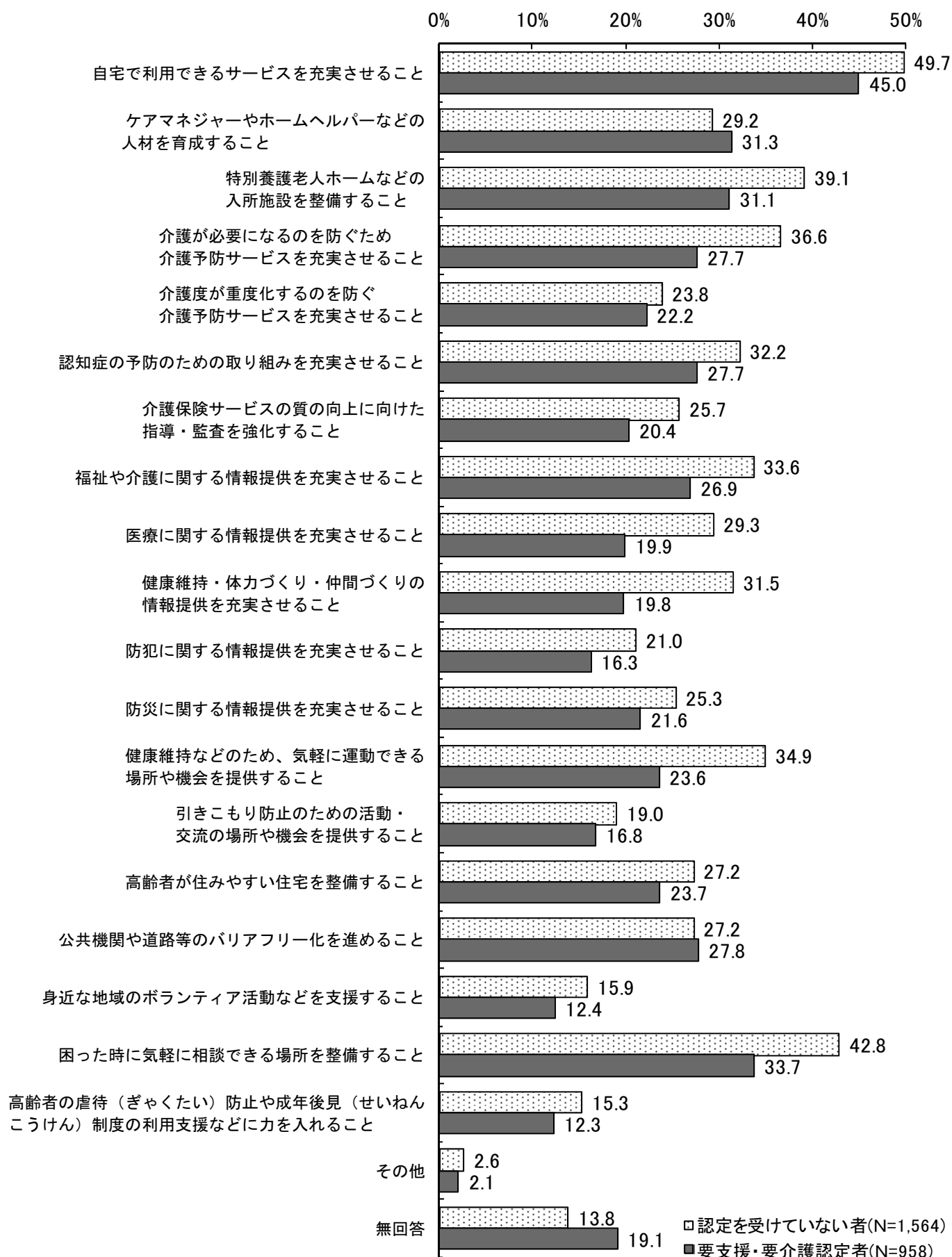
■認定を受けていない者、要支援・要介護認定者ともに「自宅で利用できるサービスを充実させること」が最も多い

- **認定を受けていない者**では「自宅で利用できるサービスを充実させること」の49.7%が最も多く、次いで「困った時に気軽に相談できる場所を整備すること」の42.8%、「特別養護老人ホームなどの入所施設を整備すること」の39.1%、「介護が必要になるのを防ぐため介護予防サービスを充実させること」の36.6%が続いている。
- **要支援・要介護認定者**では「自宅で利用できるサービスを充実させること」が45.0%で最も多く、次いで「困った時に気軽に相談できる場所を整備すること」33.7%、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること」31.3%、「特別養護老人ホームなどの入所施設を整備すること」31.1%が続いている。

《経年比較》

- 平成25年度の調査と比較すると、**認定を受けていない者**では、「認知症の予防のための取り組みを充実させること」(29.2%→32.2%)、「自宅で利用できるサービスを充実させること」(47.4%→49.7%)、「福祉や介護に関する情報提供を充実させること」(31.7%→33.6%)、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること」(27.4%→29.2%)、「介護が必要になるのを防ぐため介護予防サービスを充実させること」(34.9%→36.6%)、「身近な地域のボランティア活動などを支援すること」(14.5%→15.9%)、「困った時に気軽に相談できる場所を整備すること」(41.6%→42.8%)、「介護度が重度化するのを防ぐ介護予防サービスを充実させること」(22.7%→23.8%)、「公共機関や道路等のバリアフリー化を進めること」(26.2%→27.2%)などが増加している。
- **要支援・要介護認定者**において増加した選択肢は、「健康維持などのため、気軽に運動できる場所や機会を提供すること」(21.8%→23.6%)、「認知症の予防のための取り組みを充実させること」(26.3%→27.7%)、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること」(30.2%→31.3%)、「困った時に気軽に相談できる場所を整備すること」(32.6%→33.7%)、「高齢者の虐待（ぎゃくたい）防止や成年後見（せいねんこうけん）制度の利用支援などに力を入れること」(11.2%→12.3%)、「介護が必要になるのを防ぐため介護予防サービスを充実させること」(26.6%→27.7%)である。

【 区に充実して欲しい高齢者施策(複数回答) 】



高齢者の生活に関する調査報告書（概要版）

平成 2 9 年 3 月 発行

発 行

葛飾区福祉部福祉管理課

〒124-8555 葛飾区立石 5－1 3－1

電話 0 3 （ 3 6 9 5 ） 1 1 1 1

調査・分析

株式会社 コモン計画研究所

〒166-0015 杉並区成田東 5－3 5－1 5

THE PLAZA-F 2 階

電話 0 3 （ 3 2 2 0 ） 5 4 1 5

この冊子は印刷用の紙へリサイクルできます。